教養科目 ・・・ 2

講義科目名称：　神道概論Ⅰ（神道と日本文化）　　授業コード：　15201　15401

英文科目名称：　Introduction to Shinto 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋セメスター	１年次	２単位	必修
担当教員			
渡辺　瑞穂子　講師			
添付ファイル			

授業の概要	日本の民族的伝統は神道に通底する特徴がある。神道は宗教として確立される以前の土着の習俗に発し、多様な文化と融合した。概念として論理性を明確に説くことは難しいとされる神道の特徴を理解し、神社・祭祀の個別の事例から神道および日本の特質を解明する。風土とともにある神道の生成と発展を、古代から現代に向かって通史的に学習する。とりわけ祭祀や伝統の基底にみられる神話・伝説に由来する、多様な信仰を学ぶことで、日本の独自性と国家制度の形成・変容を包括的に学習する。 本講座は対面授業を基本とする。但し、遠隔授業に変更の場合は、オンデマンド型で実施。
授業計画	１回目　神道と現代社会（「民族」と「民俗」の宗教） ２回目　神道古典を学ぶ①（『古事記』の国土生成神話） ３回目　神道古典を学ぶ②（『古事記』と『日本書紀』） ４回目　律令国家の祭祀と神道 ５回目　言霊の幸わう国（風土記・万葉集・祝詞） ６回目　古代祭祀と遺跡・遺物（神道の源流） ７回目　神仏習合の展開と二十二社（中世の神道①） ８回目　神道の多様化と流派（中世の神道②） ９回目　江戸幕府の神社政策（近世の神道①） １０回目　国学の登場（近世の神道②） １１回目　近代の神道と日本人 １２回目　神社神道と民俗学 １３回目　有職故実と神社 １４回目　神道の祭祀と作法 １５回目　現代とまつり
到達目標	日本の伝統文化の基層にある神道という民族的な信仰の概要を理解することで、通史的な知識を深め、基礎学力の向上をはかる。また、海外や他宗教との比較から自国文化の特質を学ぶことを通じ、広範な教養を高める。自国の歴史と神話への関心をもつことで、多文化との相違を学び、社会的かつ国際的な発信力の基礎を養う。
授業時間外の学習	受講するにあたって、予め教科書を一読し、読めない漢字・わからない意味を調べておくこと。授業後は復習を行い、重要事項の理解を深めること。授業時に疑問に思った事を自ら調べてまとめる。
評価方法	小レポート：30% 学期末テスト：70% 本講座は対面授業を基本とする。但し、遠隔授業に変更の場合は、オンデマンド型で実施。
テキスト	『プレステップ神道学』阪本是丸・石井研士編　弘文堂

参考書	『日本神道史』岡田荘司編　吉川弘文館 『わかりやすい神道の歴史』神社本庁研修所編　神社新報社 『神道と日本仏教』渡部眞弓著　ぺりかん社
備考	

講義科目名称：　日本語リテラシー　　授業コード：　12101

英文科目名称：　Japanese Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	必修
担当教員			
堤　康夫　講師			
添付ファイル			

授業の概要	学生が身につけるべき日本語の基礎を習得する講座。日本語の正しい運用は、大学の授業はもちろんのこととして、実社会のあらゆる場において求められている。授業では主に、①語彙力（敬語・文法・表記等）・②読解力（資料・文章）・③表現力（ビジネス文書・プレゼンテーション等）が身につくよう指導していく。基礎学力を養成するとともに、キャリア支援の一助ともなるよう授業を展開したい。授業は対面授業を原則とする。遠隔授業に移行する場合はクラスルームによる課題学習とオンデマンド授業を併用する。なお学習成果の指標はＡ－③である。
授業計画	１回目　ガイダンス ２回目　日本語に親しむ① ３回目　日本語に親しむ② ４回目　日本語に親しむ③ ５回目　日本語の基礎①―敬語― ６回目　日本語の基礎②―文法― ７回目　日本語の基礎③―語彙― ８回目　日本語の基礎④―言葉の意味― ９回目　日本語の基礎⑤―表記― １０回目　日本語の基礎⑥―漢字― １１回目　読解の基礎①ー辞書ー １２回目　読解の基礎②ー内容把握・要約ー １３回目　読解の基礎③―段落構成― １４回目　読解の基礎④―実用的文章― １５回目　まとめ
到達目標	・実用的な日本語の基礎が理解できる。 ・実用的な資料・文章の読解や表現方法が理解できる。
授業時間外の学習	毎時間予定された範囲について語句等を中心に確認し、随時復習を心掛ける。
評価方法	学期末課題（５０％）・平常点（５０％）
テキスト	・使用せず。随時プリントを配布する。
参考書	・開講時に指示する。
備考	文部科学省後援事業「日本語検定」等、各種検定・資格について積極的な受検を望みたい。

講義科目名称：　日本語リテラシー　　授業コード：　15402

英文科目名称：　Japanese Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	必修
担当教員			
津島昭宏　教授			
添付ファイル			

授業の概要	学生が身につけるべき日本語の基礎を習得する講座。日本語の正しい運用は、大学の授業はもちろんのこととして、実社会のあらゆる場において求められている。授業では主に、①語彙力（敬語・文法・表記等）・②読解力（資料・文章）・③表現力（ビジネス文書・プレゼンテーション等）が身につくよう指導していく。基礎学力を養成するとともに、キャリア支援の一助ともなるよう授業を展開したい。なお、学習成果の指標はA-①・②である。 ※遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ行い、事前に履修者に周知する。
授業計画	１回目　ガイダンス ２回目　日本語の基礎①―敬語について― ３回目　日本語の基礎②―文法について― ４回目　日本語の基礎③―語彙について― ５回目　日本語の基礎④―言葉の意味について― ６回目　日本語の基礎⑤―表記について― ７回目　日本語の基礎⑥―漢字について― ８回目　読解の基礎①―資料の解析について― ９回目　読解の基礎②―文章の解析について― １０回目　表現の基礎①―書式について― １１回目　表現の基礎②―手紙文について― １２回目　表現の基礎③―履歴書・エントリーシートについて― １３回目　表現の基礎④―ビジネス文書について― １４回目　表現の基礎⑤―意見文について― １５回目　表現の基礎⑥―プレゼンテーションについて―
到達目標	・実用的な日本語の基礎が理解できる。 ・実用的な資料・文章の読解や表現方法が理解できる。
授業時間外の学習	毎時間予定された範囲について語句等を中心に確認し、テキストの予習・復習を欠かさず行う。
評価方法	平常点（100%）。
テキスト	・『日本語検定 公式練習問題集　３級』（３訂版）（東京書籍、2016）
参考書	・『「日本語」中級-3,4級対応』（日本語検定公式テキスト・例題集　増補改訂版）（東京書籍、2016） ・『最新最強の一般常識　’２４年版』（成美堂、2022）
備考	文部科学省後援事業「日本語検定」等、各種検定・資格について積極的な受検を望みたい。

講義科目名称：　日本語リテラシー　　授業コード：　13201

英文科目名称：　Japanese Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	必修
担当教員			
伊藤慎吾　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	本講義では日本語の学習の中でも文章表現に焦点を当てる。 読み書きは、学生生活の上では、レポートや卒論の作成などの基礎能力であり、文献収集と読解の能率を高めるためにも大切な能力となる。 文章なるものにはさまざまな表現方法や様式があるが、中でも、より実用的なレポートや論文のかたちを理解し、その読解方法、作成方法を学んでもらいたい。 なお、学習成果の指標は A-②である。 遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修(「Google Meet」を利用)と併せたハイブリッド授業を実施する。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とする。
授業計画	１回目　ガイダンス 授業の進め方を説明する。 ２回目　物語文 文の分類。あらすじを作る。 ３回目　論文の分析（１） 論文を読み、構成を把握する。 ４回目　論文の分析（２） 論文を読み、構成を把握する。 ５回目　要約文の作成 論文を要約する。 ６回目　題材の選定 レポートの題材を選ぶ。 ※注　題材は史料性のあるものから選ぶこと。例）『日本書紀』『徳川実紀』『日光山縁起』『三国志』等 現代の歴史書（『逆説の日本史』『栃木県史』『応仁の乱』等）は対象外。 ７回目　関連文献の収集 対象とする題材に関連する文献を調べる。 ８回目　テーマの設定 題材のどのようなことを論じるのかを決める。 ９回目　論点の設定 論点を絞り込む。 １０回目　関連文献の整理 レポート作成に必要なデータおよび先行する見解を整理する。 １１回目　本論の構成（１） パラグラフを作成する。 １２回目　本論の構成（２） パラグラフを作成する。 １３回目　導入部の作成 本論に先行する導入部の草案を作る。 １４回目　まとめ及びレポート提出 これまでのまとめ。 また、レポートの提出。 １５回目　総評 レポートの返却と問題点の確認。
到達目標	レポート作成の技術を身に付けることができる。
授業時間外の学習	レポートの作成には、授業時間外の準備が必要。
評価方法	・学期末レポート（50%） ・授業課題（50%）
テキスト	随時プリントを配布。
参考書	『日本語検定 公式練習問題集　３級』（３訂版）（東京書籍、2016） 『「日本語」中級-3,4級対応』（日本語検定公式テキスト・例題集　増補改訂版）（東京書籍、2016） 『最新最強の一般常識　’２３年版』（成美堂、2021） ＊文部科学省後援事業「日本語検定」等、各種検定・資格に挑む学生には上記参考書を薦める。

備考	

講義科目名称：　日本語リテラシー　　授業コード：　15101

英文科目名称：　Japanese Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	必修
担当教員			
伊藤慎吾　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	日常の会話や手紙において、敬語は大切な役割を果たしている。しかし適切に使うことは容易ではない。 本講義では敬語の概略をおさえる。受講する皆さんは、それによって最低限の敬語表現を使用できるようにしてもらいたい。状況に応じて的確な表現をし、表現技術を磨いていったもらいたい。 なお、学習成果の指標は A-③である。 遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修(「Google Meet」を利用)と併せたハイブリッド授業を実施する。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とする。
授業計画	１回目　ガイダンス 授業の進め方について説明する。 ２回目　待遇表現（前） 待遇表現について説明する。 ３回目　待遇表現（後） 待遇表現について説明する。 ４回目　敬語総説 敬語の概要について説明する。 ５回目　尊敬語（上） 尊敬語について説明する。 ６回目　尊敬語（下） 尊敬語について説明する。 ７回目　謙譲語 謙譲語について説明する。 ８回目　丁寧語 丁寧語について説明する。 ９回目　小テスト これまで学習したことを確認する。 １０回目　敬語体の文章の作成（１） 敬語を用いた文章を書く。 １１回目　敬語体の文章の作成（２） 敬語を用いた文章を書く。 １２回目　手紙文の作成（１） 敬語を用いた手紙を書く。 １３回目　手紙文の作成（２） 敬語を用いた手紙を書く。 １４回目　学期末試験 学期末試験を実施する。 １５回目　まとめ 学期末試験の返却。 全体のまとめ。
到達目標	適切な敬語表現を身に付けることができる。
授業時間外の学習	実際に敬語を用いる。
評価方法	・学期末試験（50%） ・授業課題（50%） ※遠隔授業の場合は授業課題（100%）
テキスト	菊地康人『敬語再入門』（講談社学術文庫）講談社　2010年 毎回、持参すること。 なお、同書は本学図書館（第1閲覧室-L05　815.8）に配架されている。
参考書	菊地康人『敬語』（講談社学術文庫）講談社　1997年 ※本学図書館 第1閲覧室-L05　815.8 ＊文部科学省後援事業「日本語検定」等、各種検定・資格に挑む学生には下記参考書を薦める。 『日本語検定 公式練習問題集　３級』（３訂版）（東京書籍、2016） 『「日本語」中級-3,4級対応』（日本語検定公式テキスト・例題集　増補改訂版）（東京書籍、2016） 『最新最強の一般常識　’２３年版』（成美堂、2021）

備考	

講義科目名称：　日本語リテラシー　　授業コード：　15301

英文科目名称：　Japanese Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	必修
担当教員			
伊藤慎吾　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	日常の会話や手紙において、敬語は大切な役割を果たしている。しかし適切に使うことは容易ではない。 本講義では敬語の概略をおさえる。受講する皆さんは、それによって最低限の敬語表現を使用できるようにしてもらいたい。状況に応じて的確な表現をし、表現技術を磨いていったもらいたい。 なお、学習成果の指標は A-③である。 遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修(「Google Meet」を利用)と併せたハイブリッド授業を実施する。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とする。
授業計画	１回目　ガイダンス 授業の進め方について説明する。 ２回目　待遇表現（前） 待遇表現について説明する。 ３回目　待遇表現（後） 待遇表現について説明する。 ４回目　敬語総説 敬語の概要について説明する。 ５回目　尊敬語（上） 尊敬語について説明する。 ６回目　尊敬語（下） 尊敬語について説明する。 ７回目　謙譲語 謙譲語について説明する。 ８回目　丁寧語 丁寧語について説明する。 ９回目　小テスト これまで学習したことを確認する。 １０回目　敬語体の文章の作成（１） 敬語を用いた文章を書く。 １１回目　敬語体の文章の作成（２） 敬語を用いた文章を書く。 １２回目　手紙文の作成（１） 敬語を用いた手紙を書く。 １３回目　手紙文の作成（２） 敬語を用いた手紙を書く。 １４回目　学期末試験 学期末試験を実施する。 １５回目　まとめ 学期末試験の返却。 全体のまとめ。
到達目標	適切な敬語表現を身に付けることができる。
授業時間外の学習	実際に敬語を用いる。
評価方法	・学期末試験（50%） ・授業課題（50%） ※遠隔授業の場合は授業課題（100%）
テキスト	菊地康人『敬語再入門』（講談社学術文庫）講談社　2010年 毎回、持参すること。 なお、同書は本学図書館（第1閲覧室-L05　815.8）に配架されている。
参考書	菊地康人『敬語』（講談社学術文庫）講談社　1997年 ※本学図書館 第1閲覧室-L05　815.8 ＊文部科学省後援事業「日本語検定」等、各種検定・資格に挑む学生には下記参考書を薦める。 『日本語検定 公式練習問題集　３級』（３訂版）（東京書籍、2016） 『「日本語」中級-3,4級対応』（日本語検定公式テキスト・例題集　増補改訂版）（東京書籍、2016） 『最新最強の一般常識　’２３年版』（成美堂、2021）

備考	

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュⅠ　　授業コード： 13101

英文科目名称： Freshman English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
三品勝弘　講師			
添付ファイル			

授業の概要	（１）英文を読むための基本的な文法事項の理解を深め、さらに短文を読めるようにする。 （２）高校までに学んだ基本的な文法と英語構文を再確認し、基礎力を定着する。また、学習成果の指標はA-①で　ある。（３）なお、遠隔授業となった場合は、課題型学修とし、テキストの指定した箇所を学び、期限までに解答を提出することとする。
授業計画	１回目　　オリエンテーション・名詞　short readings　p.56 ２回目　　冠詞　short readings　p.57 ３回目　　代名詞（１）　short readings　p.58 ４回目　　代名詞（２）　short readings　p.59 ５回目　　時制　　short readings　p.60 ６回目　　進行形　　short readings　p.61 ７回目　　完了形（１）　　short readings　p.62 ８回目　　完了形（２）　　short readings　p.63 ９回目　　助動詞（１）　　short readings　p.64 １０回目　　助動詞（２）　　short readings　p.65 １１回目　　態（１）　　short readings　p.66 １２回目　　態（２）　　short readings　p.67 １３回目　　不定詞（１）　　short readings　p.68 １４回目　　不定詞（２）　　short readings　p.69 １５回目　　分詞（１）　　short readings　p.70
到達目標	高校までに学んだ基本的な英文法と英語構文を理解し、基礎的な英語読解力と表現力を養成したい。
授業時間外の学習	わからない単語の意味をすべて辞書で調べるなど、テキストの予習を完璧にして、授業に臨むこと。また、基本的な英文の理解を確認するための小テストを行うので、示された英文を書けるように努力して授業に臨むこと。
評価方法	平常点30％・小テスト30％・達成確認テスト40％。遠隔授業となった場合に、確認テストが実施不可能となった場合、平常点、小テストで評価する。
テキスト	（１）Fundamental English Grammar with Short Readings (Asahi Press)
参考書	英和辞典
備考	

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュⅠ　　授業コード： 13102　13203　14302

英文科目名称： Freshman English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
乙黒　晃　講師			
添付ファイル			

授業の概要	文化や異文化コミュニケーションに関するテーマについて講読する。多様な文化・社会を分析・比較することによって、文化研究の学問的視座を養成する。学習成果の指標はA-①とB-③である。 遠隔授業を実施する場合は、③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用する）で実施する。
授業計画	１回目　UNIT１　Essentialism　本質主義 授業についての導入 Warm-up ～ Vocabulary Building ～ Reading ２回目　UNIT１　Essentialism 補助教材による演習 ３回目　UNIT２　Non-essentialism　非本質主義 Warm-up ～ Vocabulary Building ～ Reading ４回目　UNIT２　Non-essentialism 補助教材による演習 ５回目　UNIT３　Socialization　社会化 Warm-up ～ Vocabulary Building ～ Reading ６回目　UNIT３　Socialization 補助教材による演習 ７回目　UNIT４　Cultural Identity　文化的アイデンティティ Warm-up ～ Vocabulary Building ～ Reading ８回目　UNIT４　Cultural Identity 補助教材による演習 ９回目　UNIT５　Cuyltural Hybridity　異文化融合 Warm-up ～ Vocabulary Building ～ Reading １０回目　UNIT５　Cuyltural Hybridity 補助教材による演習 １１回目　UNIT６　Sterotype　固定観念 Warm-up ～ Vocabulary Building ～ Reading １２回目　UNIT６　Sterotype 補助教材による演習 １３回目　UNIT７　Representation　文化描写 Warm-up ～ Vocabulary Building ～ Reading １４回目　UNIT７　Representation 補助教材による演習 １５回目　まとめ 授業内容理解度を確認する。
到達目標	各Unitにおける文化に関する記述内容について多様な視点・考え方を理解することができる。各Unitにおける演習によって、自己の文化・環境と比較し、改めて自己のアイデンティティについて考えられるようになる。自身を取り巻く社会的課題に気がつき、それらについて批判的に考え、自己の意見を持つことができる。
授業時間外の学習	受講する事前学習として、各Unitの「Warm-up」と「Vocabulary Building」について、各設問を辞書等を使用して解答しておくこと。また、本編の「Reading」については、わからない英単語や英語表現について、最低限、英和辞書を使って調べておくこと。
評価方法	平常点（毎回の授業内容の確認評価、レポートを含む）70% まとめ確認テストによる理解度評価　30% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	Michael Ruddick, Simon Pryor, J. A. Kusaka 『Exploring Landsapes of Culture & Communication - 英語で学ぶはじめての異文化コミュニケーション論』（松柏社、2021年） 補助教材（プリント教材） VELC研究会教材開発グループ（熊澤孝昭、静 哲人、望月正道）『AMBITIONS —Elementary』（金星堂、2021年） 補助教材（プリント教材）
参考書	英和辞書を必ず授業に持参すること。 インターネット上の無料オンライン辞書（Weblio辞書、英辞郎 on the Web等）を利用することも推奨。

備考	授業時は、授業内容を速記・記録できるノート等の学習用具を持参し使用することを推奨する。また、英和辞書は必携。その他、自分が必要と思う参考書も、持ち込み可。 授業計画は一応の目安であり、学生の事情に応じて進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュⅠ　　授業コード： 12501　13202　14301

英文科目名称： Freshman English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
田村浩一　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	英語の基礎基本をしっかり学び、日常生活レベルの英語を理解し、表現する訓練をする。 （１）高校までに学んだ基本的な文法と英語構文を再確認し、基礎力を定着させる。 （２）学んだ文法や構文を活かして、比較的短めの英語の文章を読む。 なお、学習成果の指標はA－①とB－③とである。 遠隔授業を実施する場合には、②同時双方型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。
授業計画	１回目　オリエンテーション・基本時制 各回の授業では文法項目ごとに様々な演習問題をこなすとともに、100語程度の短めの文章を読んでいく。 ２回目　進行形 ３回目　完了形 ４回目　受動態 ５回目　使役 ６回目　５文型 ７回目　前半のまとめ ８回目　文の種類 ９回目　不定詞 １０回目　動名詞 １１回目　分詞 １２回目　句と節 １３回目　前置詞 １４回目　接続詞 １５回目　後半のまとめ
到達目標	英語の基礎基本を身につけ、日常生活レベルの英語を理解し、自ら表現できるようにする。また基礎的な英語の読解力を身につける。
授業時間外の学習	教科書の予習と復習を必ずしてほしい。この二つなくして語学の上達と修得はありえない。
評価方法	授業への参加度と課題の提出状況　20% 確認テスト　80% 遠隔授業に移行した場合には上記の評価配分を変えることがある。
テキスト	教科書は別に指示する。
参考書	英語の辞書は授業時に必ず用意してもらいたい。英和でも英英でもよい。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュⅠ　　授業コード： 12502

英文科目名称： Freshman English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
戸叶行一　講師			
添付ファイル			

授業の概要	英文法を中心に英語の基礎を学ぶ。動詞の時制、態、文型、準動詞等、基礎的な文法を学習し、テキストの設問に答えることによって、要点を確認する。また、１２０語程度の英文を読み、リスニングも行う。 なお、学習成果の指標はA-①とB-③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	１回目　ガイダンス、 Chapter 1 基本３時制（1） ２回目　Chapter 1 基本３時制（２）， Chapter 2 進行形 ３回目　Chapter 3 完了形 ４回目　Chapter 4 受動態 ５回目　Chapter 5 使役 ６回目　Chapter 6 ５文型 ７回目　前半のまとめ ８回目　Chapter 7 文の種類（1） ９回目　Chapter 7 文の種類（2） １０回目　Chapter 8 不定詞 １１回目　Chapter 9 動名詞 １２回目　Chapter 10 分詞 １３回目　Chapter 11 句と節（1） １４回目　Chapter 11 句と節（2） １５回目　後半のまとめ
到達目標	英文法の基礎・基本となる動詞を中心を理解を深め、英文を読む際に、文構造（主に文型）を正確に理解し、内容理解が正しくできるようになることを目標とする。 さらに、英語による基礎的な表現力を身につける。
授業時間外の学習	テキストの中の単語・熟語などの意味を調べておくことや設問に答えておくことなど、授業の準備が必要である。さらに、既習の英文の音読や音読筆写によって、復習とする。
評価方法	確認テスト（70%）平常点（30%） 遠隔授業に変更した場合は、レポート（70%）平常点（30%）
テキスト	石井隆之、山口修、嶋田邦子、上田妙美、Bill Benfield 「Access to Simple English （英文法基礎力マスター）」 成美堂 ２０２１年（第１７刷）
参考書	英語の辞書は必携。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュⅡ　　授業コード： 22301

英文科目名称： Freshman English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
三品勝弘　講師			
添付ファイル			

授業の概要	春セメから引き続き、基本的な文法事項を理解し、短文を読めるようにする。また、学習成果の指標はA一①である。なお、遠隔授業となった場合は、課題型学修とし、テキストの指定された箇所を学び、解答を期限までに提出することとする。
授業計画	１回目　オリエンテーション・分詞（２）　short readings　p.71 ２回目　動名詞（１）　short readings　p.72 ３回目　動名詞（２）　short readings　p.73 ４回目　形容詞・副詞　short readings　p.74 ５回目　比較（１）　short readings　p.75 ６回目　比較（２）　short readings　p.76 ７回目　前置詞　short readings　p.77 ８回目　関係詞（１） ９回目　short readings　p.78 １０回目　関係詞（２） １１回目　short readings　p.79 １２回目　仮定法（１） １３回目　short readings　p.80 １４回目　仮定法（２） １５回目　short readings　p.81　まとめ
到達目標	フレッシュマンイングリッシュⅠに続き、英語の基礎基本をしっかり学び、英文内容を理解できるよう、文法事項を学ぶ。
授業時間外の学習	徹底して教材の予習をし、授業に臨むこと。特にわからない英単語の意味を辞書で調べて授業に臨むこと。また、基本的な英文の理解を確認するため、毎回小テストを行うので、示された英文を書けるように努力して授業に臨むこと。
評価方法	平常点30％・小テスト30％・達成確認テスト40％。遠隔授業となった場合に、確認テストの実施不可能となった場合、平常点、小テストで評価する。
テキスト	Fundamental English Grammar with short readings　(Asahi Press)
参考書	英和辞典
備考	

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュⅡ　　授業コード： 22302　22402　23202

英文科目名称： Freshman English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
乙黒　晃　講師			
添付ファイル			

授業の概要	文化や異文化コミュニケーションに関するテーマについて講読する。多様な文化・社会を分析・比較することによって、文化研究の学問的視座を養成する。学習成果の指標はA-①とB-③である。 遠隔授業を実施する場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用する）で実施する。
授業計画	１回目　UNIT８　Time and Culture　時間と文化 授業内容についての導入 Warm-up ～ Vocabulary ～ Reading ２回目　UNIT８　Time and Culture 補助教材による演習 ３回目　UNIT９　Discourse　談話 Warm-up ～ Vocabulary ～ Reading ４回目　UNIT９　Discourse 補助教材による演習 ５回目　UNIT１０　Collectivism and Individualism　共同体主義と個人主義 Warm-up ～ Vocabulary ～ Reading ６回目　UNIT１０　Collectivism and Individualism 補助教材による演習 ７回目　UNIT１１　Masculine and Feminine Culture　男性文化と女性文化 Warm-up ～ Vocabulary ～ Reading ８回目　UNIT１１　Masculine and Feminine Culture 補助教材による演習 ９回目　UNIT１２　High-context and Low-context Culture　高文脈文化と低文脈文化 Warm-up ～ Vocabulary ～ Reading １０回目　UNIT１２　High-context and Low-context Culture 補助教材による演習 １１回目　UNIT１３　Power-distance　権力格差 Warm-up ～ Vocabulary ～ Reading １２回目　UNIT１３　Power-distance 補助教材による演習 １３回目　UNIT１４　Globalization and Cultural Identity　グローバル化と文化の独自性 Warm-up ～ Vocabulary ～ Reading １４回目　UNIT１４　Globalization and Cultural Identity 補助教材による演習 １５回目　まとめ
到達目標	各Unitにおける文化に関する記述内容について多様な視点・考え方を理解することができる。各Unitにおける演習によって、自己の文化・環境と比較し、改めて自己のアイデンティティについて考えられるようになる。自身を取り巻く社会的課題に気づき、それらについて批判的に考え、自己の意見を持つことができる。
授業時間外の学習	受講する事前学習として、各Unitの「Warm-up」と「Vocabulary Building」は辞書等を使用して解答しておくこと。また、本編の「Reading」については、わからない英単語や英語表現について、最低限、英和辞書を使って調べておくこと。
評価方法	平常点（毎回の授業内容の理解度を評価、レポート提出等を含む）70% まとめ（授業内容理解度確認評価）30% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	Michael Ruddick, Simon Pryor, J. A. Kusaka 『Exploring Landscapes of Culture & Communication - 英語で学ぶはじめての異文化コミュニケーション論』（松柏社、2021年） 補助教材（プリント教材） VELV研究会教材開発グループ（熊澤孝昭、静 哲人、望月正道）『AMBITIONS —Elementary』（金星堂、2021年） 補助教材（プリント教材）
参考書	英和辞書を必ず授業に持参すること。 インターネット上での無料オンライン辞書（Weblio辞書、英辞郎 on the Web等）を利用することも推奨。

備考	授業時は、授業内容を速記・記録できるノート等の学習用具を持参し使用することを推奨する。また、英和辞書を必携。その他、自分が必要と思う参考書も持ち込み可。 授業計画は一応の目安であり、学生の事情に応じて進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュⅡ　　授業コード： 22401　22501　23201

英文科目名称： Freshman English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
田村浩一　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	英語の基礎基本をしっかり学び、日常生活レベルの英語を理解し、表現する訓練をする。 （１）高校までに学んだ基本的な文法と英語構文を再確認し、運用練習を通して身につける。 （２）学んだ文法や構文を活かして、英文読解練習を行う。 なお、学習成果の指標はA―①とB―③とである。 遠隔授業が必要な場合には、②同時双方型学修（Google Meetを利用）で実施する。
授業計画	１回目　話法 毎回の授業では、それぞれの文法項目ごとに様々な演習問題をこなすとともに、100語程度の文章を読んでいく。 ２回目　関係代名詞（１） ３回目　関係代名詞（２） ４回目　関係副詞 ５回目　助動詞 ６回目　仮定法 ７回目　前半のまとめと復習 ８回目　冠詞と名詞 ９回目　代名詞 １０回目　形容詞と副詞 １１回目　比較 １２回目　否定 １３回目　特殊構文（１） １４回目　特殊構文（２） １５回目　後半のまとめと復習
到達目標	英語の基礎基本を身につけ、日常生活レベルの英語を理解し、自ら表現できるようにする。また基礎的な英語の読解力を身につける。
授業時間外の学習	教科書の予習と復習を必ずしてほしい。そのことなくして語学の上達はありえない。
評価方法	授業への参加度と課題の提出状況　20% 確認テスト　80% 遠隔授業に移行した場合には、上記の評価配分を変えることがある。
テキスト	教科書は別に指示する。
参考書	辞書は授業時に必ず用意してもらいたい。英和でも英英でもよい。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュⅡ　　授業コード： 22502

英文科目名称： Freshman English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
戸叶行一　講師			
添付ファイル			

授業の概要	名詞、形容詞、副詞、前置詞等の基礎基本を確認し、関係詞、仮定法、比較、否定，特殊構文等、比較的難しい項目へとつなげる。テキストの構成（文法事項の確認、読解、聴解、作文）に従い学習を進める。 なお、学習成果の指標は、A-①とB-③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学習（「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	１回目　Chapter 12　前置詞 ２回目　Chapter 13　接続詞 ３回目　Chapter　14　話法 ４回目　Chapter　15　関係代名詞 ５回目　Chapter　16　関係副詞 ６回目　Chapter　17　助動詞 ７回目　前半のまとめ ８回目　Chapter　18　仮定法 ９回目　Chapter　19　冠詞と名詞 １０回目　Chapter　20　代名詞 １１回目　Chapter　21　形容詞と副詞 １２回目　Chapter　22　比較 １３回目　Chapter　23　否定 １４回目　Chapter　24　特殊構文 １５回目　後半のまとめ
到達目標	名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞等の品詞について理解を深め、英文の構造を確実に把握することによって、英文を読み、聴き、書いたりする際、正確に英語を扱えるようになることを目標とする。、 さらに、英語による実践的な表現力を身につけることを目指す。
授業時間外の学習	テキストの中の単語・熟語などの意味を調べておくことや設問に答えておくことなど、授業の準備が必要である。さらに、既習の英文の音読や音読筆写による復習も大切である。
評価方法	確認テスト（70%）平常点（30%） 遠隔授業に変更した場合は、課題レポート（70%）平常点（30%）
テキスト	石井隆之、山口修、嶋田邦子、上田妙美、Bill Benfield 「Access to Simple English（英文法基礎力マスター）」 成美堂 ２０２１年（第１７刷）
参考書	英語の辞書は必携。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称：　スポーツ・健康科学ＡＩ（理論・実技）　　授業コード：　12301　12401　13301　14201

英文科目名称：　Sports and Wellness Science A 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
石山育朗　教授			
添付ファイル			

授業の概要	この数年、新入生の全身持久力と体幹の筋力は低下を示している。これは、日頃運動しない生活習慣の証である。このままの状況が続けば、メタボかロコモになると予想される。 【対面授業】 縄跳び、体幹筋力トレーニング（コアトレ）を基礎体力向上種目にしながら、バレーボール、バドミントンを主として実施する。学習成果の指標はA-③、B-①である。目標の到達には、仲間との協力しながらのアクティブラーニングが欠かせない。 【オンライン授業】 新型コロナウィルスの影響で対面授業ができない場合、オンラインによる①課題型学修「Google Classroom」と②同時・双方向型学修「Google Meet」を組み合わせておこなう。
授業計画	１回目　オリエンテーション・講義１ 授業予定、成績評価、対面授業とオンライン授業について ＊不要不急の外出禁止の場合、Google Meetによるオンライン授業（同時・双方型授業）に切り替える ２回目　実技（導入編１） 縄跳びチャレンジ、コアトレチャレンジ（自分の体力の現状を知る）、各種目の課題にチャレンジ（以下、実技では毎回、縄跳び・コアトレの後、各種目の課題に各自が取り組む／種目別課題のチャレンジ） ＊オンラインの場合、課題型学修（自主トレ）に切り替えて遂行 ＊体格（体重、腹囲）の計測 ３回目　実技（導入編２） ○軽い負荷と回数によるトレーニングと各種目の基礎的動きの確認 ○種目別課題のチャレンジ ４回目　実技（開始期１） ○負荷と回数は軽い「腕・肩」のトレーニング ○種目別課題のチャレンジ ５回目　実技（開始期２） ○負荷と回数は軽く「胸・腹部（体幹の前面）」のトレーニング ○種目別課題のチャレンジ ６回目　講義２ 【対面・遠隔共通】 運動をする理由（大学での専門教育課程における体育科目の意味）、トレーニングの理論（合理的、科学的な実施による効果） ７回目　実技（継続期１） ○負荷と回数を少し増やし「腰・下肢」のトレーニング ○種目別課題のチャレンジ ８回目　実技（継続期２） ○身体の感覚運動の動きを各自でチェックして回数を考えながら「体幹前面」のトレーニング ○種目別課題のチャレンジ ９回目　実技（継続期３） ○縄跳びチャレンジの効果確認（最低２分間跳びができるか）、「腰・下肢」のコアトレ ○種目の課題トライアル（より上のレベルを目指して） １０回目　実技（継続期４） ○飽きない工夫を考えてチャレンジ（状況に応じて負荷を上げる） ○種目別課題トライアル １１回目　実技（発展期１） ○正しい動きの確認をしながら回数を増やして「胸・腹部」の体幹前面のトレーニング ○種目別課題トライアル １２回目　実技（発展期２） ○種目のバリエーションを考えて「胸・腰・下肢」を鍛える ○種目別課題トライアル １３回目　実技（発展期３） ○縄跳びチャレンジ（２分間・３分間）、コアトレの効果を意識しながら体を動かす ○種目別課題トライアル １４回目　講義３ 【対面・オンライン共通】 食事と心の働きの関連、ダイエットの注意点、肥満度について １５回目　講義４（まとめ） 【対面・オンライン共通】 春セメのまとめと課題の提出などに関する質疑応答、心の整え方について
到達目標	【対面授業】

	①基本のコアトレ４種目を覚え、入学時より反復回数・セット数を増やすこと（知識・技能、学びに向かう力） ②縄跳びを引掛けずに連続９０秒間続けること（技能、表現力、学びに向かう力） ③「実技の課題シート」に記載されている種目別課題（得点）をできるだけ多く取ること（技能、学びに向かう力） 【オンライン授業】 自主トレ（遠隔用課題）による体力の向上および体形の変化（減量・体脂肪率減少）、３分間縄跳び 【本講座におけるディプロマ・ポリシーとの関連】 「（前略）～健康と生活の領域における専門的知識や技術を修得し、実践的技術を身につけることができる」
授業時間外の学習	独りでいつでも実施可能な「コアトレ」と「縄跳び」は、学習課題を達成するために授業外の積極的な練習が必要である。
評価方法	【対面授業】 ①実技の課題シート・種目別課題得点合計（５０％） ②縄跳びの完遂回数（３分間以上、２０％） ③期末レポート（３０％） 【オンライン授業】 オンライン授業の場合も評価方法は変わらない 【単位取得条件】 縄跳びの９０秒間連続跳び（１回達成できれば可、単位認定の条件） 遠隔授業の場合も評価方法は変わらない
テキスト	石山育朗『アドラー心理学で続けるひとりでできるエクササイズ』（アルテ、2019年）
参考書	①久野譜也『筋トレをする人が10年後、20年後になっても老けない46の理由』（毎日新聞出版、2015年） ②川端理香『食事と栄養　究極のポイント５０』（メイツ出版、2012年） ③比嘉一雄『自重体幹トレ100の基本』（枻出版社、2014年）
備考	オンライン授業の同時・双方型学修に円滑な参加ができる環境を各自で整えて欲しい。大学のシステムとサーバーに起因するものでないインターネット環境の不具合による欠席、課題の未提出は自己責任とする。単位認定に係る出席状況、成績判定は学則第２２条、第２３条に則る。諸事情により授業内容を変更する場合がある。連絡等はGoogle　Classroom（ストリーム）でおこなう。 なお、授業態度（運動にふさわしくない服装、ヤル気が感じられない不真面目な参加）については厳重に対処する。

講義科目名称：　スポーツ・健康科学ＡⅡ（理論・実技）　　授業コード：　22403　23301　24201　24401

英文科目名称：　Sports and Wellness Science A 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	１単位	必修
担当教員			
石山育朗　教授			
添付ファイル			

授業の概要	春セメスターの「ＡＩ」を基礎として、身体と運動に関する理解をさらに深める。とくにロコモティブ症候群（ロコモ）の予防には何をどのように実施すればよいかを引き続き学ぶ。 【対面授業】 実技は、ウォームアップとしてコアトレと縄跳びを引き続き行い、バスケットボールとバドミントンを主として実施する。ダンベル体操、バランスボール、エアロバイク等も適宜実施する。学習成果の指標はA-③、B-①である。目標の到達には、仲間と協力しながらのアクティブラーニングが欠かせない。 講義では、運動を続けられない理由について、アドラー心理学に基づいた課題への考え方と解決、および挫けない方法について学ぶ。 【オンライン授業】 新型コロナウィルスの影響で対面授業ができない場合、オンラインによる遠隔授業①課題型学修「Google Classroom」と、②同時・双方向型学修「Google Meet」を組み合わせておこなう。
授業計画	１回目　オリエンテーション・実技（講義１を含む） ○授業予定、成績評価、対面授業とオンライン授業について ○身体慣らしの運動 ＊不要不急の外出禁止の場合、Google Meetによるオンライン授業（同時・双方型授業）に切り替える ２回目　実技（開始期１） ○縄跳びチャレンジ、コアトレチャレンジ（夏休み後の自分を知る） ○各種目の課題にチャレンジ ＊オンラインの場合、以降は課題型学修（自主トレ）に切り替えて遂行 ＊体格（体重、腹囲）の計測 ○コアトレ４種目と縄跳び ３回目　実技（開始期２） ○コアトレ４種目「腕・肩」と縄跳び ○バスケ（基礎練習、ミニゲーム）、バド（ラリーとフライトの確認とゲーム） ４回目　実技（開始期３） ○コアトレ５種目「腕・肩・腹部」と縄跳び ○バスケ（基礎練習・ドリブルとパス、ミニゲーム）、バド（ラリーとフライト・サーブとゲーム） ５回目　実技（開始期４） ○コアトレ５種目「胸・腹部（体幹の前面）」と縄跳び ○バスケ（ドリブルとパス、ミニゲーム）、バド（ラリーとフライト・スマッシュとゲーム） ６回目　実技（継続期１） ○コアトレ６種目「胸・腹部（体幹の前面）」と縄跳び ○バスケ（カウンターのためのパス、ミニゲーム）、バド（ラリーとドロップショットとゲーム） ７回目　実技（継続期２） ○コアトレ６種目「腹部（体幹の前面）・腰・下肢」と縄跳び ○バスケ（基本のシュート、ミニゲーム）、バド（配球のパターンとゲーム） ８回目　実技（継続期３） ○コアトレ８種目「胸・腰・下肢」と縄跳び ○バスケ（フリー・レイアップシュート、ゲーム）、バド（スマッシュの練習、ゲーム）･･･運動量の確保 ９回目　実技（継続期４） ○コアトレ８種目「胸・背部・腰（側面）・下肢」と縄跳び ○バスケ（レイアップシュート、ゲーム）、バド（ドロップショットの練習、ゲーム）･･･運動量の確保 １０回目　実技（継続期５） ○コアトレ８種目「胸・背部・腰（側面）・下肢」と縄跳び ○バスケ（３ポイントシュート、ゲーム）、バド（ラケットワークの確認、ゲーム）･･･運動量の確保 １１回目　実技（発展期１） ○コアトレ８種目「胸・背部・腰（前後）・下肢」と縄跳び ○バスケ（３ポイントシュート、シュートにつなげるパス、ゲーム）、バド（ラリーを続ける工夫、ゲーム） １２回目　実技（発展期２） ○コアトレ１０種目「胸・背部・腰（前後）・下肢」と縄跳び（３分チャレンジ） ○バスケ（ゲームを楽しむ）、バド（ヘアピンとフットワーク）･･･運動量確保 １３回目　実技（発展期３） ○コアトレ１０種目「胸・背部・腰（前後）・下肢」と縄跳び（５分チャレンジ） ○バスケ（パスを繋げてシュートまで）、バド（相手を動かす・配球の変化、ゲーム）

	１４回目　　講義２ 【対面・オンライン共通】 ロコモとメタボ、運動とエネルギー １５回目　　講義３（まとめ） 【対面・オンライン共通】 ○秋セメのまとめと課題の提出 ○運動・スポーツの実践からの学びについて考える
到達目標	【対面授業】 ①コア（体幹）トレーニングの基本の４種目を覚えること（知識、思考力） ②縄跳びを連続３分間以上続けること（技能、学びに向かう力） ③「実技の課題シート」に記載されている課題をできるだけ多く達成すること（技能、思考力・表現力、学びに向かう力） ④自分のトレーニング計画を作ること（知識、思考力・表現力、学びに向かう力） ⑤入学時のウェスト値を「５％」以上締めること（知識、思考力、学びに向かう力） ＊これらの目標の３つ以上達成すること 【オンライン授業】 自主トレ（遠隔用課題）による体力の向上および筋肉の引締め、３分間縄跳び 【本講座におけるディプロマ・ポリシーとの関連】 「～健康と生活の領域における専門的知識や技術を修得し、実践的技術を身につけることができる」
授業時間外の学習	「コアトレ」と「縄跳び」は独りでいつでもできる。その学習課題を達成するには、授業外にも積極的な練習が必要である。
評価方法	【対面授業】 ①実技の課題シート・種目別課題得点合計（５０％） ②縄跳び（連続跳び）の完遂回数（３分以上、２０％） ③期末レポート（３０％） 【オンライン授業】 オンライン授業の場合も評価方法は変わらない 【単位取得条件】 縄跳び120秒間連続跳び（１回、単位認定の基礎条件） 遠隔授業の場合も評価方法は変わらない
テキスト	石山育朗『アドラー心理学で続けるひとりでできるエクササイズ』（アルテ、2019年）
参考書	①久野譜也『筋トレをする人が10年後、20年後になっても老けない46の理由』（毎日新聞出版、2015年） ②川端理香『食事と栄養　究極のポイント５０』（メイツ出版、2012年） ③比嘉一雄『自重体幹トレ100の基本』（枻出版社、2014年）
備考	オンライン授業の同時・双方型学修に円滑な参加ができる環境を各自で整えて欲しい。大学のシステムとサーバーに起因するものでないインターネット環境の不具合による欠席、課題の未提出は自己責任とする。単位認定に係る出席状況、成績判定は学則第２２条、第２３条に則る。諸事情により授業内容を変更する場合がある。連絡等はGoogle Classroom（ストリーム）でおこなう。 なお、授業態度（運動にふさわしくない服装、ヤル気が感じられない不真面目な参加）については厳重に対処する。

講義科目名称： 文学（文学とメディア）　　授業コード： 24301

英文科目名称： Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
大山　尚　教授			
添付ファイル			

授業の概要	・文章作品と映像作品の比較から、作品受容の違いを理解する。 ・文学作品が原作となって映像化されたものは決して少なくないが、それらは、必ずしも原作に忠実であるとは限らない。そうなると、原作と映像化された作品はまったく別のものなのだろうか。メディアによる表現方法の違いを通して考えてみたい。 　なお、学習成果の指標はA-①である。 ※遠隔授業となった場合、①課題型学修(「Google Classroom」を利用)でおこなう。 ※この授業では、映像作品の表現方法を確認したうえで、文章作品との表現の違いを理解していく。そのためこの授業では映像作品の視聴が必須となるが、対面授業時に視聴している映像をオンラインで流すことはできないので、もし遠隔授業となった場合、「世界の中心で、愛をさけぶ」、「時をかける少女」、「スタンド・バイ・ミー」の映像作品を、各自何らかの方法（レンタル、購入など）で入手して課題に取り組む必要が発生することを了解した上で受講願う。
授業計画	１回目　　ガイダンス ２回目　　「世界の中心で、愛をさけぶ」①（映像作品前半部分の視聴） ３回目　　「世界の中心で、愛をさけぶ」②（映像作品前半部分の解説） ４回目　　「世界の中心で、愛をさけぶ」③（映像作品後半部分の視聴） ５回目　　「世界の中心で、愛をさけぶ」④（映像作品後半部分の解説／文章作品との比較解説） ６回目　　「世界の中心で、愛をさけぶ」⑤　－小テスト－ ７回目　　「時をかける少女」①（映像作品前半部分の視聴） ８回目　　「時をかける少女」②（映像作品前半部分の解説） ９回目　　「時をかける少女」③（映像作品後半部分の視聴） １０回目　　「時をかける少女」④（映像作品後半部分の解説／文章作品との比較解説） １１回目　　「時をかける少女」⑤　－小テスト－ １２回目　　「スタンド・バイ・ミー」①（映像作品の視聴・タイムテーブルの作成） １３回目　　「スタンド・バイ・ミー」②（映像作品の視聴・象徴的なシーンの把握） １４回目　　「スタンド・バイ・ミー」③（文章作品と映像作品の比較解説） １５回目　　「スタンド・バイ・ミー」④　－小テスト－
到達目標	メディアによる表現方法の違いを理解し作品を自分なりに解釈できるようになる。
授業時間外の学習	映像作品については授業時以外での視聴を強いることは無いが、可能であるなら、何らかの方法（レンタル、購入など）で２、３度視聴して欲しいとも思う。文章作品（原作）は授業のパート時以前に必ず一読しておくこと。
評価方法	授業への参加意欲（60%） 各作品の小テスト（40%）　※遠隔授業の場合も同様
テキスト	・『世界の中心で、愛をさけぶ』（小学館文庫）片山恭一　小学館 ・『時をかける少女』（角川文庫）筒井康隆　角川書店 ・『スタンド・バイ・ミー －恐怖の四季秋冬編』（新潮文庫）スティーヴン・キング　新潮社
参考書	ナシ

備考	〔視聴する映像作品〕 ・「世界の中心で、愛をさけぶ」（監督・脚本：行定勲、2004年作品、東宝映画） ※遠隔授業での課題で映像作品の視聴が必要なのは①②③での3回分です。 ・「時をかける少女」（監督：細田守、脚本：奥寺佐渡子、2006年作品、角川ヘラルド映画） ※遠隔授業での課題で映像作品の視聴が必要なのは①②③での3回分です。 ・「スタンド・バイ・ミー」（監督：ロブ・ライナー、脚本：レイノルド・ギデオン他、1986年作品、コロムビア映画） ※対面授業では吹き替え版を使用します。 ※遠隔授業での課題で映像作品の視聴が必要なのは①②③での3回分です。

講義科目名称：　現代社会と倫理　　授業コード：　15403　15501

英文科目名称：　Ethics and Modern Society

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
小林宣彦　講師			
添付ファイル			

授業の概要	日本は長い歴史の中で、独自の倫理観を築いてきた。倫理とは曖昧なものであるが故に、時代とともに変質してきたが、現代では倫理そのものが否定されることがある。しかしながら、国際化が進む現代社会においては、様々な倫理的価値観が衝突しており、その際に重要なのは、自己の倫理観を明確にしておくことである。 本講義では、現代社会において、倫理がどのような役割を果たしているのかを学び、自己の倫理的価値観を理解することを目的とする。 講義は、以下の三点をテーマにすすめる。 一点目は、「人間はなぜ倫理を必要とするのか」について考えていく。 二点目は、「資本主義社会はなぜ倫理を必要とするのか」について考えていく。 三点目は、日本の現代社会の倫理的問題点を、具体例を挙げながら考えていく。 授業は「対面型」でおこなうが、全面遠隔授業となった場合は「同時・双方向型学修」でおこなう。「同時・双方向型学修」の方法については、授業時または「Google Classroom」で指示する。 なお、学習成果の指標は A－①とB－①である。
授業計画	１回目　　イントロダクション（授業の進め方などの説明） ２回目　　正義とは何か ３回目　　人間と倫理１（自然界の特徴） ４回目　　人間と倫理２（自然界のコントロール） ５回目　　人間と倫理３（人間社会の特徴） ６回目　　人間と倫理４（人間社会のコントロール） ７回目　　資本主義社会と倫理１（資本主義の定義） ８回目　　資本主義社会と倫理２（資本主義の特徴） ９回目　　資本主義社会と倫理３（民主主義とは何か） １０回目　　資本主義社会と倫理４（民主主義の原理） １１回目　　資本主義社会と倫理５（資本主義社会の倫理） １２回目　　資本主義社会と倫理６（日本的資本主義社会の倫理） １３回目　　現代社会の倫理的問題点１（教育と倫理） １４回目　　現代社会の倫理的問題点２（医学の進歩から生じる倫理的問題点） １５回目　　総括（授業のまとめ）
到達目標	一、資本主義と民主主義の特徴と問題点を指摘することができる。 一、近代資本主義における倫理の機能を説明することができる。 一、現代社会における倫理的問題を指摘し、それについて考えることができる。
授業時間外の学習	授業では専門的用語が出てくるので、それについて辞典類を引いて調べる。
評価方法	平常点（数回の小テスト）：100％
テキスト	なし
参考書	授業時に紹介していく。

備考	

講義科目名称： 歴史発見　　授業コード： 14401

英文科目名称： Discovery of Japanese Hitory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
内山京子　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	近代の日本では、メディアが政治・経済・社会などに多様な影響を与えました。この授業では前半で明治期の新聞の歴史について講義し、後半では近現代の新聞の探し方・調べ方を説明した上で、関心のある記事を選び、背景を調べ、レジュメにまとめてもらいます。新聞という身近なメディアを通して近代史に接することで、意外な一面を発見し、教養と多様な価値観を身につけることを目指します。 なお、学習成果の指標はA-①です。 授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせて実施します。
授業計画	１回目　ガイダンス ２回目　近代メディアの誕生 ３回目　瓦版から政論新聞へ ４回目　レジュメの作り方①―新聞記事の探し方― ５回目　言論と暴力の合流 ６回目　言論の自由と言論規制（1） ７回目　言論の自由と言論規制（2） ８回目　言論と暴力の分離 ９回目　レジュメの作り方②―新聞記事の読み方と調べ方― １０回目　言論と政治 １１回目　政治の季節～「中新聞」の成立 １２回目　レジュメの作り方③―まとめ方の具体例― １３回目　レジュメの提出とコメントの記入 １４回目　レジュメへの批評① １５回目　レジュメへの批評②
到達目標	近代日本とメディアに関する基礎的な知識を身につけ、関心を持つことが出来る。 近代日本とメディアについて調べ、自分の言葉で他人に分かりやすく説明することが出来る。
授業時間外の学習	レジュメの準備は授業時間外に行ってもらいます。授業でも新聞の探し方・調べ方やレジュメの作り方は説明しますが、不明点・不安点があれば教員に積極的に質問しましょう。
評価方法	平常点（コメントペーパーなど）50%、レジュメ50% 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。
備考	受講生の人数や学修状況等に応じて上記の授業内容を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。 実務教員：宮内庁書陵部期間業務職員として実録編纂及び刊行に関する業務に６年間従事。

講義科目名称： 歴史発見　　授業コード： 25401

英文科目名称： Discovery of Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
内山京子　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	近代の日本は、短期間の間にさまざまなことが変化しました。この講義では、梨本宮妃伊都子という皇族妃の生涯を軸に、明治維新から敗戦までの約百年を概観します。高等学校で日本史を選択していない学生のために、映像や画像、当時の写真や新聞なども使用しながら進めていきます。 近代日本の意外な一面を発見し、関心を持つことで、教養と柔軟な価値観を身につけることを目指します。 なお、学習成果の指標はB-①です。 授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修(「Google Classroom」を利用)と③オンデマンド型学修(「Google Meet」を利用)とを組み合わせて実施します。
授業計画	１回目　ガイダンス―日本の近代と梨本宮妃伊都子について― ２回目　映像作品鑑賞 ３回目　明治中期　誕生～少女時代（上流階級の日常） ４回目　明治中期　結婚・出産（武家から皇族へ） ５回目　明治後期　日露戦争下の皇族妃 ６回目　明治後期　欧州旅行 ７回目　明治後期　明治天皇崩御、世相の変化 ８回目　大正期　第一次世界大戦、李王家との縁組 ９回目　大正期　関東大震災 １０回目　大正期　皇族妃の日常 １１回目　昭和初期　昭和天皇即位、婚儀 １２回目　昭和初期　2・26事件、軍隊の慰問 １３回目　昭和戦中期　日米開戦 １４回目　昭和戦中期　東京大空襲、敗戦、臣籍降下 １５回目　昭和戦後期　元皇族妃の戦後
到達目標	近代の日本に関する基礎的な知識を身につけ、関心を持つことが出来る。 近代の日本について自分の言葉で他人にわかりやすく説明することが出来る。
授業時間外の学習	高校時代に日本史を選択していない学生は、事前に教科書レベルの概説を予習しておくとスムーズです。疑問点や不明点があれば積極的に質問しましょう。 より深く知りたい学生は、各回で紹介する参考文献を読んでください。
評価方法	平常点（各回のコメントペーパー、小テストなど）（100%） 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。
備考	受講生の人数や学修状況等に応じて授業内容を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。 実務教員：宮内庁書陵部期間業務職員として実録編纂及び刊行に関する業務に6年間従事。

講義科目名称： 音楽（理論と表現）　　授業コード： 11101

英文科目名称： Music（Theory and Expression）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
早川冨美子　教授			
添付ファイル			

授業の概要	（1）保育士、幼稚園教諭、小学校教諭をめざす学生として必要な音楽理論の基礎を学び、様々な音楽活動に活かしていく力を身につける。 （2）音楽のしくみや楽典の基礎を理解し確認するために、保育や教育現場でもよく活用されている鍵盤ハーモニカを使用しながら授業を進めていく。さらに即興やグループでの音楽づくりの活動も取り入れる。 （3）習得した知識や音楽的な力を実習や保育、教育現場における様々な表現活動に活かせるようにする。 なお、学習成果の指標はＢ－②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（Google classroom」と利用）とを組み合わせて実施する。
授業計画	１回目　音楽の基礎知識の確認とガイダンス ２回目　楽譜のルール（譜表、音名、音符、休符、変化記号、拍と拍子など）、鍵盤ハーモニカの確認 ３回目　鍵盤ハーモニカの基礎と指導法（ゲストティーチャーによる保育・教育現場における鍵盤ハーモニカの指導法） ４回目　音程１（完全音程系と長短音程系）、鍵盤ハーモニカで音あそび ５回目　音程２（臨時記号、増音程、減音程）、鍵盤ハーモニカ１で音楽づくり ６回目　音階と調（長音階、短音階、長調、短調、移調、転調） ７回目　和音１（和音の種類） ８回目　和音２（コードネーム） ９回目　いろいろな音楽用語、コードネームの応用 １０回目　楽曲の形式、音楽づくり（反復、呼びかけとこたえ、変化をもとに） １１回目　鍵盤ハーモニカによる音楽づくり１（グループ練習） １２回目　鍵盤ハーモニカによる音楽づくり２（グループ発表） １３回目　日本の音楽１（音楽の歴史、箏の知識、楽譜の読み方） １４回目　日本の音楽２（箏の演奏体験、箏による音楽づくり） １５回目　楽典のまとめ、音楽を活かした表現活動の実際
到達目標	１．知識・技能→音楽理論の基礎を理解し、様々な表現活動を行うことができる。 ２．思考力・判断力・表現力→音楽理論を理解し、ピアノや様々な音楽活動に活かして表現したり、簡単な即興や音楽づくり等の表現ができる。 ３．学びに向かう力→保育や教育現場での様々な表現活動に活用することができる。
授業時間外の学習	毎回、前時の復習と予習をして授業に臨むこと。 基礎的な楽典の知識を高めていくために、楽譜を書いたり、プリント問題に取り組むこと。 いろいろな国の音楽を鑑賞したり、関心をもつようにすること。
評価方法	小テスト（40%）平常点（60%）＊遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。

テキスト	『コンパス音楽表現』駒久美子・味府美香編著（建帛社、2020年） 『イチから知りたい！楽典の教科書』春畑セロリ・向井大策著（西東社、2016年） 『みんなピアノだい好き』坪能由紀子他共著（全音楽譜出版、2016年） 　必要に応じてプリントを配布。 ＊テキストは、他の音楽関係の授業でも併用し、2年次でも継続使用します。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	鍵盤ハーモニカは、楽典を理解したり、音楽づくりの活動等で使用するので、各自用意してください。但し、コロナ禍で使用困難な時は、他の楽器等で代用する場合があります。 カスタネットは各自準備をしてください。 五線ノートは、毎時間持参してください。 授業計画については履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

講義科目名称：　日本国憲法　　授業コード：　11507　21401

英文科目名称：　The Constitution Of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
石田　厚　講師			
添付ファイル			

授業の概要	憲法は、国家の根本法規であり、国家の在り方を定めている重要な法であって、それを理解しておくことは、国民の務めともいえるものでります。日本国憲法は、前文及び１０３条からなる法典で、内容も広範囲にわたっており、講義内容も、国民主権、天皇、基本的人権、平和主義、統治機構など全般に及んでいくことになります。 遠隔授業を行うことになった場合には、①課題型学修によって、授業を行っていきます。 人間教育学科の学習成果としましては、B-②を達成することになります。
授業計画	１回目　法とは何か ２回目　憲法とは何か ３回目　実質的意味の憲法と形式的意味の憲法 ４回目　近代憲法と現代憲法 ５回目　憲法の法源 ６回目　憲法の解釈 ７回目　明治憲法の特質 ８回目　日本国憲法の成立 ９回目　国民主権 １０回目　選挙 １１回目　地方自治 １２回目　平和主義 １３回目　基本的人権（自由権） １４回目　基本的人権（社会権） １５回目　総括（まとめ）
到達目標	日本国憲法の基本原理である国民主権・基本的人権・平和主義について理解を深める。 特に基本的人権については、日常生活と関連づけながら具体的に考えることができるようにする。 学習成果の指標については、B一人間教育学科では、②となります。

授業時間外の学習	事前学習として、テキストの関連個所を2回は読んでおくこと。
評価方法	授業への参加意欲（10%）　レポート（20%）　　定期試験（70%） 定期試験が実施でいない場合には、課題レポートを提出してもらい、それを参考にして成績評価を行っていきます。
テキスト	『憲法入門〔第4版補訂版〕』伊藤正己・有斐閣
参考書	
備考	

講義科目名称：　日本国憲法　　授業コード：　16101　26201

英文科目名称：　The Constitution Of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
今出和利　講師			
添付ファイル			

授業の概要	法律学の基本的な考え方をできるだけ分かりやすく概説した上で、日本国憲法の基本原理、人権・統治機構分野を中心に、憲法の諸規定が我々の普段の生活にどの様な関わりをもっているのか、という視点で解説する。典型的な学説・判例の紹介に加えて、時事的なトピック等をも題材にしつつ講義を行う。また、「通説的な理解」のみならず、その他の多様な考え方も紹介することで、受講生のより深く多面的な理解・考察に資するように工夫する。 なお、学習成果の指標A－①である。 本授業は「対面授業」を原則とするが、状況に応じて遠隔授業（Google Meetを利用した「②同時・双方向型学修」）を行う場合もある。
授業計画	１回目　ガイダンス　法の学び方 ２回目　法とはなにか①（法と道徳、成文法と不文法、公法と私法等） ３回目　法とはなにか②（法の機能、法の解釈、法の効力関係等） ４回目　立憲主義の誕生と展開、日本国憲法制定史 ５回目　日本国憲法の基本原理 ６回目　包括的基本権（幸福追求権、法の下の平等、個人の尊重等） ７回目　自由権①（精神的自由） ８回目　自由権②（経済的自由、身体的自由） ９回目　社会権（生存権、教育を受ける権利、労働基本権等）、参政権 １０回目　新しい人権（プライバシー権、環境権等） １１回目　立法権（国会の地位と権能、二院制のしくみ、法律の制定過程等） １２回目　行政権（内閣の組織、内閣・内閣総理大臣の権能等） １３回目　司法権①（司法権の独立、違憲審査権、三審制のしくみ等） １４回目　司法権②（裁判員制度等） １５回目　地方自治、憲法改正問題等
到達目標	日本国憲法に関する基本的な知識を身につけるとともに、日常生活において一見縁遠いと思われがちな憲法は、実は我々の社会生活に深くかかわる身近な法であることが理解でき、あわせて、憲法や法律を学ぶことの面白さを実感できることを目標とする。
授業時間外の学習	講義の前には、前もって配布したプリント等に目を通し講義で学ぶ事項を確認し、疑問点等について明確にしておくこと。また、講義の後には、学んだ事項の内容の復習と疑問点等について解決できたのかを確認すること。 併せて、受講生には、日ごろのニュース（特に法律、政治、社会問題等に関するもの）を意識的に把握することを期待する。
評価方法	「レポート」(80%)及び「平常点」(20%)で評価する。 遠隔授業に変更した場合も同様。
テキスト	テキストは指定しない。 毎回、講師が作成したパワーポイント資料等を配布する。
参考書	金津謙、足立文美恵、佐々木彩、今出和利、齋藤美喜『法律学への案内(第２版)』（八千代出版、2021年）
備考	

講義科目名称： 市民生活と経済　　授業コード： 12102

英文科目名称： Civic Life and Economy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
秋山誠一　教授			
添付ファイル			

授業の概要	経済と聞くとちょっと難しそうに見えますが、経済は人間の活動、経済学は人間を研究する学問であり、私たちに身近なものであるとの視点から講義します。私たちの生活が経済活動であり、私たちが経済を動かし、物価変動や景気の動向、金利や株価、為替相場の変動を引き起こします。そして、物価が上がれば、生活しにくくなる、景気が悪くなると、就職しにくくなります。このように経済の動きが私たちの暮らしに大きな影響を及ぼします。私たちの暮らしをよりよく運営していくためには、家計を取り巻くこれらの経済環境や家計の所得や支出の各部分に影響を及ぼす要素について知ることが必要です。この講義では、経済は人間の活動で、人間生活に影響を及ぼすとの視点から、金融の問題や家計を成り立たせている所得と支出の中身を見ていきます。学習成果の指標はAの①です。遠隔授業をする場合は、③オンデマンド型学修(「Google Meet]を利用)で実施します。
授業計画	１回目　経済学ってなに 自分たちの社会と経済を知る ２回目　生まれたときから経済の担い手 消費者としての私たち、働き手としての私たち ３回目　商品ってなに 生産物と商品、商品の性質 ４回目　お金（貨幣）ってなに 物々交換のなかから、貨幣はどうして生まれたか ５回目　貨幣の機能（働き）１ 価格、金貨、紙幣、円の誕生 ６回目　貨幣の機能２ 貯める、後払い、世界との取引、為替手形 ７回目　企業ってなに 企業は何のために商品を作るのか、資本とは ８回目　賃銀と生活レベルは 賃銀はどのようにしてきまる ９回目　なんのために働くの 働くことの意味、雇用システムの変容 １０回目　経済生活のしくみをみよう 公共、不況・経済危機はなぜ起こる。私たちの就職はどうなる。 １１回目　日本の戦後改革 高度経済成長の準備 １２回目　日本の高度経済成長の光と影 どのようにして起こったか １３回目　低経済成長への移行とバブル経済 現在に続く経済停滞 １４回目　主要な経済モデルの特徴と選択 主権者として私たちはどのような社会を目指すのか １５回目　市民生活と経済のまとめ
到達目標	私たちはいずれ社会に出て、生きていくためには、働いてお金を稼ぎ、ほしいものを買うなど、さまざまな経済活動を行います。そこで本講義では現代社会のなかのいろいろな経済問題を取り上げて、私たちの生活との関わりのなかで、少し秩序立てみていき、よりよい生活をするためには何が必要かを考える能力を養います。
授業時間外の学習	とくに予習の必要はありません。授業に出席し、一緒に考えてください。講義の後、ノートをみて、講義のポイントを振り返ってみてください。
評価方法	授業態度（10%） 課題提出（40%） 試験（50%）の総合判断によります。 オンラインに移行した場合、試験は行わず、 授業態度（10%）課題提出（60%） 授業時小テスト（30%）で評価します。
テキスト	『入門経済学〔新版〕』鶴田満彦編・有斐閣新書
参考書	講義時に紹介します。

備考	

講義科目名称：　社会・環境と人間活動　　授業コード：　11201　12402

英文科目名称：　Social Environment and Human Activity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
都留　覚　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	特に、環境問題とＳＤＧｓについて解説する。 ①身近な環境問題の具体的な事例を通して、環境問題の原因や課題を明らかにする。 ②アクティブラーニングやクリエイティブシンキングの手法を体験しながら、自分らしい見方・考え方を創造する力を身につけさせ、環境問題についての認識を深めていけるようにする。 ③演習方式による理解を促す。 ④社会的事象の分析・整理・再構成の道筋を明らかにし、自分なりの見方・考え方を考創することができるようにする。 ⑤尚、学習成果の指標は、B-①と③である。 ⑥遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「Google　Classroom」を利用)と②同時・双方向型学修(「Google　meet)とを組み合わせて実施する。
授業計画	１回目　社会的事象の分析・整理・再構成とその方法 ・社会的事象と現象学 ・事象と事実 ・事実認識・意味認識・価値認識 ２回目　パンデミックと人類の対応 ・世界のパンデミック ・日本のパンデミック ・新型コロナウイルスと人々の生活の変化 ３回目　環境問題の発見 ・レイチェル・カーソン「沈黙の春」 ・人間活動の発展と拡大 ・人間活動と自然(資源の搾取と発展) ４回目　日本の環境問題と歴史 ・田中正造と足尾銅山鉱毒事件 ・足尾銅山の今 ・日本の環境問題（経済発展と昭和の公害・四大公害の原因と経過そして結果） ５回目　北九州方式と環境問題解決の視点 ・「七色の煙」と「輝く洞海湾」 ・未来に問い続ける写真集「これが公害だ」 ・北九州方式と主婦の力による解決「青空がほしい」 ・世界が認めた「KITAKYUSHU PLAN」 ６回目　地球温暖化・オゾン層の破壊 ・産地移動・海水面温度と魚種交代 ・地球温暖化のメカニズムと世界的影響の実情（異常気象と温暖化） ・オゾン層破壊の現実と影響・熱帯雨林の減少の事実と影響 ・フロンガスの環境への影響・紫外線の生活への影響 ７回目　大気汚染 ・世界の大気汚染の現状 ・ＰＭ２．５の現実 ・地球温暖化とＣＯ2の関係 ・エネルギー問題と環境 ８回目　水質汚染・海洋汚染 ・水質汚濁の原因と現状 ・海洋汚染の現状と影響 ・身近な海洋汚染(マイクロプラスチック) ９回目　自然環境の破壊 ・生物多様性の必要と地球環境 ・希少生物・絶滅危惧種とレッドデータブック ・身の回りの在来種と外来種 ・砂漠化の原因と影響 １０回目　化学物質と環境(水俣事件を元に) ・水俣病の発生と問題化（海洋汚染の具体的事例） ・原因究明と市民生活 ・水俣病患者と差別 ・水俣病裁判と患者の認定、そして、「舫い直し」と未解決の課題 １１回目　ゴミ・リサイクル ・廃棄される食料 ・分別とリサイクル ・資源としてのゴミ ・グリーンコンシューマと環境改善運動 １２回目　資源・エネルギー開発 ・私たちの生活とエネルギー消費

	・限りあるエネルギー資源と自然エネルギー ・原子力エネルギーと工業生産 ・持続可能な社会の実現に向けての活動(COPの活動) １３回目　自然災害と対策 ・東日本大震災と原発事故 ・放射能の影響と処理 ・クリーンエネルギーと工業生産・再生可能エネルギーと電力の自由化 ・自然災害が当たり前の日本 １４回目　近年の環境問題と対策 ・山と川と海の関係を結ぶ活動「森は海の恋人運動」と里山思想 ・河川周辺の環境整備と牡蠣が育つ環境作り ・魚つき林と里山の手入れ ・全国の植林活動（北海道の昆布・広島の牡蠣、等） １５回目　環境問題の未来 ①ティッシュペーパーと江戸時代の庶民の暮らし ②グリーンコンシューマと廃棄物 ③ウォータービジネスと食のグローバル化 ※①～③から１つを選び、自分なりの考えをまとめて表現する
到達目標	①環境問題に関する基礎的な事項について理解し、説明できる。 ②環境問題に関する事例から要点を理解し、説明できる。 ③環境問題に関する事例を分析し、改善点について、考えたり、説明できたりすることができる。 ④アクティブラーニングの手法を使って、自立的な学習ができる。 ⑤クリエイティブシンキングの手法を使って、自分らしい表現・思考、判断ができる。 ⑥演習方式による理解を通して、社会的事象の分析・整理・再構成の道筋を明らかにし、自分なりの見方・考え方を考創することができる。
授業時間外の学習	①授業中に適時ノートを取り、ノートそのものが参考資料となるようにまとめる。 ②授業中に配布した資料はファイルし、整理しておくこと。 ③授業中に指定された参考文献は可能な限り読んで授業に臨むこと。 ④グループワーク（ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ、等）を行うので、自分なりに調べたり、考えたりして授業に臨むこと。 ⑤公共の図書館などを利用して、授業に関連した書籍や情報を進んで調べること。
評価方法	①毎回の授業の理解度についての小レポート（２０％） ②ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ（２０％） ③期末レポート（２０％） ④学期末の筆記試験（４０％） に基づいて評価する。 遠隔授業へ変更した場合は、 ①毎回の授業の理解度についての小レポート（６０％） ②ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ（２０％） ③期末レポート（２０％） に基づいて評価する。
テキスト	GoogleClassroomで資料をアップし、テキストとする。 必要に応じてその都度プリントを配布する。
参考書	授業の中で指示する。
備考	新型コロナウイルス等の感染拡大の状況により、遠隔授業を行う場合がある。

講義科目名称： データの科学　　授業コード： 12201

英文科目名称： Science of Data Analysis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
石山育朗　教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代のデータ処理におけるパーソナル・コンピュータ（PC）の役割は非常に重要であり、統計関数が使われる。複雑で分かりにくい関数もあるが、その活用には平均（値）、分散（標準偏差）、自由度、モードなど基本の関数（データ）の意味を理解することである。統計ソフト（表計算など）によってデータ処理はできても、統計の意味が分っていなければ得られた数値が「何」を意味しているのかは分らず、その結果から先を推測することができないことになる。 本講座では、データの意味、その基本的事項を実際の演算を含めて学ぶ。またデータから得られた結果を元に、相手に伝えるコミュニケーション（論理的思考、ロジック）の基本を演習する。学習成果の指標はA-③である。 授業は情報処理室で行い、表計算ソフトを操作しながら進める。新型コロナ感染状況によっては、①課題型と②同時遠隔（Google Meet）の学修になる。
授業計画	１回目　オリエンテーション（授業内容の解説、単位取得の条件等） 〇テキストについて 〇PCの環境、使用ソフト（ワード、エクセル、パワーポイント）について 〇授業内容（表計算・関数を用いたデータ処理、作図、課題、レポート）について 〇授業に参加するときの注意 ２回目　平均（値）について学ぶ ＊２回目以降、毎回オンラインによる確認テストがある ３回目　最大値、最小値、メディアンなど平均値以外の代表値 ４回目　分散、標準偏差はデータ、サンプルの散らばり具合 ５回目　標準化をするとデータの何が分かるのか（標準偏差、標準誤差とは何か） ６回目　標準化と偏差値によるデータの位置づけ ７回目　度数分布表、ヒストグラム（モード、一様分布）による分布（データの視覚化） ８回目　正規分布は理想分布 ９回目　クロス集計表を実際のデータ集計に役立てる １０回目　散布図、相関、共分散で２つ以上の項目の関連性を見る １１回目　回帰直線（回帰式）で値を推定する １２回目　サンプリング（母集団、ランダムサンプリング、自由度ほか、データの取り方の色々） １３回目　ロジック（演繹法と帰納法） １４回目　ロジック（論理的思考力を身につけてプレゼンを突破） １５回目　授業の総括「データの意味」
到達目標	①統計値（項目）の意味を理解すること（知識・理解力・思考力） ②表計算ソフト（Excel）を使いデータベース作成、およびプレゼンのための図表の作成スキルを身につけること（思考力、表現力、技能） 【全学のディプロマポリシーとの関連】 「専門分野の学芸について、客観的な事実に基づいて理論的に思考し、適切に説明・表現できる」ことに繋がっている。
授業時間外の学習	授業だけで表計算ソフトの演算処理や作図するレベルまで使えるようになることは難しい。予習・復習（計２時間以上）する必要がある。
評価方法	授業時に随時パソコンを使った小テストまたは本時の課題（40%）を実施し、総括のレポート（60%）と合わせて評価する。 なお、ネガティブな授業態度（積極性、意欲）には厳重に対処し、課題およびレポートの未提出は「否」とす

	る。オンライン授業の場合も評価方法は変わらない
テキスト	丸山建夫『ビギナーに役立つ統計学のワンポイントレッスン』（日科技連出版社、2008年）
参考書	Total Communication Workout（Learning Associates LLC.、日本語テキスト）
備考	オンライン授業の同時・双方型学修に円滑な参加ができる環境を各自で整えて欲しい。大学のシステムとサーバーに起因するものでないインターネット環境の不具合による欠席、課題の未提出は自己責任とする。単位認定に係る出席状況、成績判定は学則第２２条、第２３条に則る。諸事情により授業内容を変更する場合がある。連絡等はGoogle Classroom（ストリーム）でおこなう。

講義科目名称： 情報処理　　授業コード： 11202 11402 12103 13302 22101 22201 22404 23101

英文科目名称： Information Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
吉田真理子　教授			
添付ファイル			

授業の概要	「情報リテラシーの修得」 　授業では、高度情報化社会において主体的に行動できるように、情報活用力を培うための基礎的な情報リテラシーなどの習得を目的としています。そのため、コンピュータの構成と機能を理解させ、身近な例題を用いた実習・課題作成などをとおして、文書処理、表計算、データベース処理、プレゼンテーションなどの技術を習得します。 　なお、学習成果の指標は、Ａ－③とＢ－①である。 　本授業は対面授業を実施します。ただし、必要に応じて遠隔授業を行わなければならない場合は、② 同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を中心に、① 課題型学修（「Google Classroom」を利用）または、③ オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施します。履修者への連絡や課題の指示は、必要に応じて「Google Classroom」も利用します。 　なお、コンピュータを利用した授業であるため、授業の進度・レベルは、履修クラス別に習熟度をみながら、内容を調整・変更して進める場合があります。
授業計画	１回目　パーソナルコンピュータおよびインターネットの利用について （ＯＳの概要、Googleその他の基本操作、ファイルとフォルダ、データ管理など） ２回目　Wordの活用① （レポートの書き方と書式、日本語入力と文書の保存、タイピング練習など） ３回目　情報モラルと情報の検索 （情報の安全性、情報検索、資料収集、整理など） ４回目　電子メールの活用とWordの活用② （メールコミュニケーションのポイント、ヘッダー/フッター、文書の作成と編集、ナビゲーションウィンドウや操作アシスタントなどの表示と利用など） ５回目　Wordの活用③ （文書の表示と印刷方法、表の作成と配置の変更、インデントの利用、表のデザインとレイアウト、セルの結合など） ６回目　Wordの活用④ （ビジネス・オリジナル文書作成など） ７回目　Wordの活用⑤ （ワードアート・図形・テキストボックス・オンライン画像の挿入と編集、オブジェクトの選択、グループ化など） ８回目　Wordの活用⑥ （レポートの作成、段組み、検索と置換、文章校正、アウトラインなど） ９回目　PowePointの活用① （基本操作、スライドの作成とレイアウトの変更、デザイン、プレゼンテーションの表示、マスター表示、テキストボックスの描画、描画ツールなど） 10回目　PowerPointの活用② （表・画像・図形・SmartArt・ビデオ・動作の挿入、アニメーションウィンドウとアニメーション、リンクなど） 11回目　PowerPointの活用③ （画面切り替え、スライドショー、アウトライン、課題とプレゼンテーションなど） 12回目　Excelの活用① (基本操作、データ入力、オートフィル、ページレイアウトと印刷、表の作成と書式設定など) 13回目　Excelの活用② （数式の計算と参照方式、統計・論理関数、並べ替えとフィルターなど） 14回目　Excelの活用③ （検索／行列・数学/三角関数、ピボットテーブルなど） 15回目　Excelの活用④ （グラフ作成、表とグラフの貼り付け、データベースの利用、入力規則など）とまとめ（総合問題）
到達目標	１．知識・技能 ・コンピュータを利用して、データの編集、加工、整理するために必要な基本的スキルを身につけることができる。 ・習得した知識・技能を活用して、定型文書・プレゼンテーション資料・データの分析資料等を作成することができる。 ２．思考・判断力・表現 ・多様なデータや情報を収集・分析して、適正に判断・処理し、それを効果的に活用することができる。 ・作成したプレゼンテーション資料を活用して、表現力を磨くことができる。

	・実習を通して、問題解決するために探究心・思考力を培うことができる。 ３．学びに向かう力 ・実習を通して、学び合いから協同意識及び参加意識を身につけることができる。 ・身につけた知識と技術を活かして、問題解決のために柔軟に対応することができる。 ・学習を通して、基礎力を身につけ、キャリア形成力を養うことができる。
授業時間外の学習	１．授業を欠席した場合について （１）やむを得ず欠席した場合は、当該授業の内容を次回までに必ず確認しておいてください。 課題が出ている場合は、その提出期限を確認し、指定日までに提出してください。 （２）次回までに事前準備が必要な場合は、授業開始前日までに必ず行ってください。 ２．事前学習（予習）について（90分） 毎回、予定されている授業計画を確認し、テキストの該当箇所に目を通しておいてください。 ３．事後学習（復習）について（90分） 毎回、授業時に行った内容についてテキストを参考に復習し、次回までに理解度を確認しておくこと。 なお、授業時の課題が未完成の場合または授業外の課題が出た場合は、指示に従って作成し、期限内に提出してください。
評価方法	平常点（100%）。詳細は以下の割合で評価します。授業への参加意欲（20%）、演習課題（30%）、理解度確認テスト（50%）に基づき総合的に評価します。なお、授業時の演習問題及び授業外の課題が未提出の場合は評価できませんので、課題等は指示に従って必ず提出してください。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はありません。
テキスト	『情報リテラシー　Windows 10 ／ Office 2019対応』ＦＯＭ社。（最新版を使用） その他、資料を適宜、配布します。
参考書	必要に応じて、Classroomなどで適宜紹介します。
備考	・授業は対面授業を中心に実施しますが、各クラスの履修人数等の状況に応じて、「Google Classroom」及び「Google Meet」も併用 して行う場合があります。 ・配布資料及びテキストの演習問題に基づいて作成したすべての作品・課題は、授業時または授業外にて「Google Meet」、その他指定 場所に提出していただきます。 ・授業計画は履修クラスに応じて内容を調整、変更する場合があります。 ・第１回目は授業に必要な登録や説明も行います。必ず出席してください。 ・公欠またはその他の理由で欠席した場合は、「欠席届」を必ず提出してください。 ・課題は授業で指示された方法によって完成させ、指定日までに必ず提出してください。なお、授業時にまたはやむを得ず欠席して未提 出の場合は、提出方法を確認のうえ、指定日までに必ず提出してください。 ・オンライン授業（②型の同時・双方向型学修）を実施した際に、授業への参加がない場合、もしくは授業内に提出すべき課題が未提出 の場合は欠席となりますので注意してください。 ・授業は学んだ知識・技術を積み重ねて行きます。欠席が全授業数の3分の1以上にならないようにしてください。

講義科目名称：　キャリアデザイン　　授業コード：　14501　24501

英文科目名称：　Career Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
藤掛　登　教授			
添付ファイル			

授業の概要	高校までに進路指導やキャリア教育で、望ましい職業観、労働観の育成が図られてきた。しかし、新規大卒就職者の３割が３年以内に離職すると言われ、若者には職業生活への円滑な移行が望まれる。また、人生１００年時代を迎える中、生き方や働き方について理解を深め、自分にふさわしいキャリアを構想する実践的な力を養うことが、一層求められている。学生時代にこの授業を通して将来を見据えて自分の長い人生を見つめなおす契機となることを期待する。 学習成果の指標は、Ａ－①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（google Meetを利用）とを組み合わせて実施する。
授業計画	１回目　職業観、労働観の基礎（意義・目的） ２回目　職業観、労働観の基礎（歴史・現状） ３回目　ライフコースを知ろう ４回目　「大人になる」ことの意味 ５回目　働くことを考える ６回目　変化のなかの若者と意識 ７回目　大学から労働への移行 ８回目　企業のフレキシビリティと労働者のキャリア ９回目　ワーク・ライフ・バランス １０回目　世界をみすえたキャリアの在り方 １１回目　学びをいかし深める １２回目　人生のロールモデルを探す １３回目　なぜいまキャリアデザインか １４回目　労働法制の基礎知識 １５回目　まとめ
到達目標	職業観、労働観について、基礎的な理解の上に、現実の雇用環境や就労事情等の具体的な動向を踏まえ、自分にふさわしいキャリアデザインを構想する実践的な力を身に付ける。
授業時間外の学習	新聞や書物を読んで、広い視野を養うように心がけましょう。
評価方法	ノート５０％、平常点（小テスト）５０％ 遠隔授業に変更になった場合、レポート１００％
テキスト	岩上真珠・大槻奈巳『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣、２０１４年
参考書	授業に関連する資料を随時配布する。
備考	実務教員：後期中等教育学校商業科教諭・進路指導主事として３７年間勤務。

講義科目名称：　生活と数学　　授業コード：　26101

英文科目名称：　Life and Mathematics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
橋本美智明　講師			
添付ファイル			

授業の概要	「二次方程式なんて、生活で使ったことない」など、生活における数学の必要性を感じていない言葉を耳にする。 「算数・数学の実用性」をはじめ、「生活を支える基盤としての数学」や「人間性陶冶に寄与する数学」といった、数学学習の意義や価値を教養の一つとして学び、生活を豊かにしてほしいと思う。そして、我々には、「文化遺産としての数学」を後世に継承していかなければならない、という義務のあることにも気付いてほしい。 上記の目的に迫れるよう、身近な題材を探究していくことによって、数学のよさを体感してほしい。 なお、学習成果の指標はＡ－③と、Ｂ－②　である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修により実施します。
授業計画	１回目　生活の中にある「数」① ２回目　生活に生かしたい「計算」① ３回目　生活を支える「量と測定」① ４回目　生活に潤いを与える「図形」① ５回目　生活を広げる「関数」① ６回目　生活を豊かにする「統計」① ７回目　驚くべき「数学」 ８回目　生活の中にある「数」② 「数」についてレポートを作成し、それを基に２０分程度の発表を行います。 一人１領域を選び、レポート作成・発表を行います。 ９回目　生活に生かしたい「計算」② 上記８回目と同様 １０回目　生活を支える「量と測定」② 上記８回目と同様 １１回目　生活に潤いを与える「図形」② 上記８回目と同様 １２回目　生活を広げる「関数」② 上記８回目と同様 １３回目　生活を豊かにする「統計」② 上記８回目と同様 １４回目　美しい「数学」 １５回目　人間教育としての「数学」
到達目標	数学のよさについて、自分なりの見方や考え方をもち、表現することができる。
授業時間外の学習	身の回りにある「数学」についてレポートとしてまとめる。
評価方法	授業への参加意欲・態度（60%）、レポート、作品等（40%） 遠隔授業にした場合は、授業への参加意欲・態度（40%）、レポート、作品等（60%）
テキスト	題材ごとに資料を配布する。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	持ち物等は、授業の中で連絡する。

講義科目名称： 化学と生活　　授業コード： 14303

英文科目名称： Chemistry and Life

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
日比香子　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	化学は、食品学・栄養学・医学などを理解するための基礎となり、日常生活や食生活に深く係わっている。ここでは、物質を構成する原子・分子に着目し、その構造や性質・反応など化学の基礎を理解し、生活に係わる化学的視点を培いたい。 計算問題を苦手とする学生が多いので、基礎的な計算問題を例示し、皆で内容を共有したい。また、小テストを授業の終りに実施し、次の授業で返却・解説して学習内容を固定化したい。 なお、学習評価の指標はＢ－②である。 本授業は、対面授業を中心とするが、遠隔授業になった場合、③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修となった場合は、毎回のオンデマンド授業の際に課題を出し（「Google Clasroom」を利用）、その課題の提出をもって出席とする。
授業計画	１回目　第１章　化学式 ２回目　第２章　原子量と分子量、モル数 ３回目　第３章　化学反応式 ４回目　第４章　溶液の濃度 ５回目　第５章　酸・塩基および塩 ６回目　第６章　酸化と還元 ７回目　第７章　原子の構造と電子配置 ８回目　第８章　酸・アルカリの規定度 ９回目　第９章　水素イオン濃度 １０回目　第10章　ｐＨ １１回目　第11章　有機化学　1. 市販プロパンガス　2. 消毒用アルコール １２回目　3. アルコール発酵（醸造酒）　4. 酵素と発酵 １３回目　5. 食酢の主成分　6. 石ケンの原理 １４回目　7. パイナップルの香り　8. 化学調味料 １５回目　9．まとめ
到達目標	習得した化学の基礎的内容が理解でき、特に健康と生活の領域における分野で、日常生活の中で起きる現象を化学的視点で考えることができる
授業時間外の学習	授業の最初に前回学習した内容の小テストを行うので、復習をし、授業内容が不明な場合には個人的に研究室を訪れ解決する。 また、食事をする際に、自分が今摂取している食べ物の成分、さらに栄養素として考えたとき、どのようなカテゴリに分類されるのかを考えるように
評価方法	授業への参加意欲（50%）、授業中に行う小テスト、オンデマンド後に提出する課題（50%）を基に、総合的に評価する。
テキスト	使用しない。

参考書	
備考	

講義科目名称： 生命の進化　　授業コード： 22303　24502

英文科目名称： The Evolution of life

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
後藤正人　教授			
添付ファイル			

授業の概要	地球上のあらゆる生物（動物・植物）が、その時々の環境の中で様々な手段を駆使して必死に生き続けようとしている姿から、生命体が種の保存をかける「生命力のたくましさや不思議さ」について考察する。また、自然界で動植物が生き延びていくためには、その時々の自然環境に適応するための様々な戦略と挑戦がある。生命の進化は、40億年という気の遠くなるような時間の経過がある。そこで、視聴覚教材を有効活用しながら、生命の進化を紐解き、ヒトが生命の進化にどのような影響を及ぼしているのかを考察していく。なお、学習成果の指標はB―③である。 本講義科目は、対面授業を中心に実施するが、遠隔になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と ②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施する。
授業計画	１回目　生命40億年はるかな旅（オリエンテーション） ２回目　生命の不思議な力「タネの知恵」 ３回目　生命の息吹を直に感じ取る－野外学習 ４回目　海からの創世 ５回目　進化の不思議な大爆発 ６回目　魚たちの上陸作戦 ７回目　花に追われた恐竜 ８回目　大空への挑戦者 ９回目　奇跡のシステム「性」 １０回目　昆虫たちの情報戦略 １１回目　ヒトがサルと別れた日 １２回目　ヒトはどこへ行くのか １３回目　地球と共に歩んで １４回目　生命の進化の向かうところ １５回目　地球と生命は共生体（まとめ）
到達目標	○地球上のあらゆる生物（動物・植物）が、その時々の環境の中で様々な手段を駆使して必死に生き続けようとしている姿から、生命体が種の保存をかけて営む「生命力のたくましさや不思議さ」に気付くことができる。 ○本講義科目を通して、生命の神秘さに目を見張る豊かな感性を身につけることができる。
授業時間外の学習	○講義並びに視聴した内容を踏まえて、新たな気付きや発見・疑問などを所定のレポート用紙に記述し、次回の授業時までに提出する。 ○民間人が宇宙に飛び立つ時代に入ったことで、宇宙的視野から地球の未来を考えるようにする。
評価方法	授業への参加意欲・小レポート・課題の提出（50%）、授業時に行う小テストの結果（50%）に基づいて評価する。遠隔授業になった場合も同様である。
テキスト	『教育の泉６』（後藤正人・文溪堂）
参考書	
備考	その都度、講義資料を配布。

	実務教員：小学校教員（３４年間勤務）。専門分野は、幼児教育・生活科・理科・総合的な学習である。 諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称：　日本人の起源と進化　　授業コード：　14502

英文科目名称：　Origin of Japanese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
大工原　豊　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本列島における人類の出現、大陸・半島からの渡来、環境や文化による生活の変化などについて、考古学と人類学の観点から学びます。 旧石器時代における日本列島への渡来、縄文時代～近世の人骨の特徴、墓の特徴、親族関係などについて時代を追って紹介します。 遠隔授業となる場合はオンデマンド型で実施します。
授業計画	１回目　人類学入門 ２回目　現代日本人の特徴　日本人とは何か？ 現代日本人の成り立ち ３回目　人類はいつ日本にやって来たか？ 日本最古の人類遺跡 旧石器時代の人類化石 ４回目　日本列島人の形態と遺伝子 ＤＮＡから見た日本人の特徴 ５回目　旧石器時代の人々 日本列島への現生人類（ホモサピエンス）の到来 北方ルート・朝鮮ルート・南方ルート それ以前に人類はいたか？ ６回目　縄文時代はじめの頃の縄文人 ・早期の縄文人の特徴（居家以岩陰遺跡の縄文人） ・土器群と石器群からみた行動パターン ７回目　縄文時代の人々（１） ・縄文時代の墓制（屈葬から伸展葬へ） ・土壙墓と配石墓 ・埋葬人骨の特徴（多人数合葬と単独葬） ８回目　縄文時代の人々（２） ・人骨から分かる食べ物（C13分析） ・歯から分かること（生業・年齢） ・文化習慣・しぐさ（蹲踞姿勢） ９回目　弥生時代の人々 ・北九州の甕棺墓（戦いで死んだ人々） ・土井ヶ浜の人骨 ・関東の再葬墓 １０回目　古墳時代の人々 ・古墳に埋葬された被葬者 ・金井東裏遺跡の人骨 １１回目　古代の人々 ・火葬される人骨 ・中尊寺金色堂のミイラ １２回目　中世の人々 ・墓から出土した人骨（板碑・五輪塔・宝篋印塔） ・戦場から出土した人骨（鎌倉材木座の人骨・首塚） １３回目　近世の人々 ・庶民の顔、大名・公家の顔 ・江戸から出土した人骨（病気の痕跡） １４回目　北と南の人々 ・アイヌと沖縄の人々 １５回目　授業のまとめ 筆記試験（配布資料・ノート持ち込み可）
到達目標	・日本人の成り立ちについて理解できる。 ・旧石器時代から江戸時代にかけての日本人の特徴、墓制の変遷を理解することができる。
授業時間外の学習	・日本人のなりたちに関する最新の報道や展覧会などに関心を持って接する。
評価方法	筆記試験（70%）筆記試験は最終授業時に実施する。配布資料・ノートの持ち込み可とする。 平常点（30%）　授業時に提出する課題・小テスト・授業態度から評価する。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。

参考書	授業時に紹介する。
備考	

講義科目名称：　韓国事情　　授業コード：　80002

英文科目名称：　---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	２単位	選択
担当教員			
中村香代子　講師			
添付ファイル			

授業の概要	協定校である、韓国・漢陽女子大学校の協力を得て、短期研修プログラムを企画した。このプログラムにそって韓国を訪問し、韓国の社会・生活・文化等を理解する。学習成果の指標は、Ａ－①③、Ｂ－①③で 全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。
授業計画	１回目　現在の韓国事情及び日韓関係を学ぶ。（事前指導） ２回目　２回目から１２回目まで ７泊８日の研修プログラムの通り、漢陽女子大学校で「コリア及び韓国事情」についての講義を受講、体験学習（校内・校外）、日本語通翻訳科の学生との交流、ホームスティ等を通して韓国の社会・生活・文化などを学ぶ。 ３回目　コリア語授業（文字） ４回目　コリア語授業（発音） ５回目　コリア語授業（文法） ６回目　コリア語授業（会話） ７回目　体験学習（宮廷作法） ８回目　体験学習（陶芸作成） ９回目　ホームステイ １０回目　体験学習（世界遺産見学） １１回目　体験学習（ソウル市内見学） １２回目　修了式 １３回目　（帰国後、課題レポートを提出） １４回目　学生発表 １５回目　課題レポート及び発表をもとに、改めて韓国事情について考える。
到達目標	異文化の体験を通して、緊張の続く朝鮮半島の諸問題について、より広い視野で深い見解がなされるようにする。
授業時間外の学習	出発前に基本的マナー、韓国文化について学んでおく。
評価方法	授業（短期研修プログラム）への参加意欲(80%)と課題レポート(20%) 全面遠隔授業の場合も同様に評価する。
テキスト	プリント資料を配付。
参考書	テーマに沿って、その都度参考文献を紹介する。
備考	短期研修プログラムに参加すること。

講義科目名称：　神道概論Ⅱ（神道と社会）　　授業コード：　25201

英文科目名称：　Introduction to Shinto 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	２単位	選択
担当教員			
渡辺　瑞穂子　講師			
添付ファイル			

授業の概要	神道概論Ｉの学習を継承して、神道の時代的変遷について具体的事例を講義する。古代から現代に至る神道の姿を体系的に説明することで神道の歴史を概観し、神道思想・祭祀の特質を解明してゆく。日本人の精神文化の基礎に位置づけられる神道の祭りと祈りの伝統を通して、日本の文化的特徴と祭祀の深淵を解明する。 本講座は対面授業を基本とする。但し、遠隔授業に変更の場合は、オンデマンド型で実施。
授業計画	１回目　神話と祭祀の成立 ２回目　言挙げせぬ国の神まつり ３回目　三輪山と沖ノ島の祭祀遺跡 ４回目　天皇と神社の祭祀体系 ５回目　律令国家と神祇令 ６回目　神宮祭祀 ７回目　神仏の融合 ８回目　中世神道思想の展開 ９回目　庶民信仰の隆盛 １０回目　幕府の神祇制度 １１回目　国学の四大人 １２回目　日本の近代化と神道 １３回目　戦後の神社神道と国際社会 １４回目　神道祭祀と年中行事 １５回目　神道の研究領域と関連諸学
到達目標	神道を通史的にを学ぶことで、日本および日本人の基層理解を深化させる。天皇祭祀と祖先崇拝の特徴を学ぶ。神話の古代から国際社会の現代まで、神道の変遷過程を主軸にして日本の祭祀伝統を体系的に学習することで、巨視的に歴史を俯瞰する能力を身につける。学生個々人が帰属する歴史文化に価値と意味を見いだし、説明することができることを目標とする。
授業時間外の学習	受講するにあたって、予め教科書を一読し、読めない漢字・わからない意味を調べておくこと。授業後は復習を行い、重要事項の理解を深めること。授業時に疑問に思った事を自ら調べてまとめる。
評価方法	小レポート：30% 学期末小テスト：70%
テキスト	『日本神道史』岡田荘司編・吉川弘文館
参考書	『事典　神社の歴史と祭り』岡田荘司編　吉川弘文館 『神道と日本仏教』渡部眞弓著　ぺりかん社 『元旦四方拝の研究』渡辺瑞穂子著　啓文堂書房
備考	

講義科目名称： 政治と人間　　授業コード： 25402

英文科目名称： Politics and Human Beings

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	２単位	選択
担当教員			
杉山　亮　講師			
添付ファイル			

授業の概要	私たちが生きる民主主義社会を営んでいくための政治の仕組みについて講義します。政治の基本概念、日本政治の仕組みを理解した上で、国際政治の見方、グローバルな諸課題などについてテキストに沿って学んでいきます。 本授業は対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）により実施します。 なお、学習成果の指標はA-③とB-③である。
授業計画	１回目　はじめに――「政治」とは何か ２回目　政治学のテーマ――権力（パワー）とは ３回目　国家という枠組み(2章) ４回目　政治体制(3章) ５回目　選挙と投票(4章) ６回目　政党と政党システム(5章) ７回目　政権とアカウンタビリティ(6章) ８回目　権力の分立－執政・立法・司法(7章) ９回目　政策過程と官僚制・利益団体(8章) １０回目　連邦制と地方制度(9章) １１回目　安全保障と平和(10章) １２回目　国際政治経済秩序(11・12章) １３回目　リベラリズムとは何か １４回目　女性と政治 １５回目　環境と政治
到達目標	・現代政治の原理・制度・実践について基本的な知識を身につけ、社会人として必要な政治的教養を得る。 ・日本と世界における政治的事象を的確に理解し、説明することができ
授業時間外の学習	講義前にシラバスに記載した章を一読すること。日頃から政治や社会、国際問題に関するニュースに積極的に接すること。講義後はレジュメに記載した参考文献などを用いて復習すること。
評価方法	毎回のコメント・質問シート（40%）：各講義に対する理解度を評価する 最終レポート（60%）：授業全体の目標への到達度を評価する 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	砂原庸介ほか『政治学の第一歩　（新版）』有斐閣、2020 また、講義ごとにレジュメを配布する。
参考書	加茂利男ほか『現代政治学　第4版』有斐閣、2012年 中村昭雄『基礎からわかる政治学　増補新装版』芦書房、2012年 川出良枝『政治学』東京大学出版会、2012 ＊その他の参考文献は授業内で紹介する。
備考	

講義科目名称： 人類の起源と進化　　授業コード： 24503

英文科目名称： Human Origin and Evolution

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	２単位	選択
担当教員			
大工原　豊　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	現在、人類はホモ・サピエンス１種ですが、700万年間の歴史の中では、様々な種類の人類が暮らしてきました。それらの人類や現生の霊長類の姿をもとに、我々人類の存在を考えてみたいと思います。 この授業ではそれらの人々の骨格や暮らしぶりについて、形質人類学・考古学・DNA研究などの最新の知見をもとに、写真やイラストを提示しながら紹介します。 遠隔授業の場合はオンデマンド型で実施します。
授業計画	１回目　ヒトの進化について ・人類の系統樹 ・形質人類学と文化人類学 ・ＤＮＡ分析の急速な発達 ２回目　アフリカの初期人類 ・700万～100万年前の人類 ・絶滅した人類 ・二足歩行の始まり ３回目　ホモ・エレクトス ・ジャワ原人 ・北京原人 ・ハイデルベルク人 ４回目　ネアンデルタール人とデニソワ人 ・ヨーロッパのネアンデルタール人 ・シベリアのデニソワ人 ５回目　現生人類（ホモ・サピエンス）の登場 ・ミトコンドリアイブ（20万年前の１人の女性の遺伝子） ・アフリカのホモ・サピエンス ６回目　交雑する人類 ・現生人類に受け継がれた旧人のＤＮＡ ７回目　ネアンデルタール人の絶滅 ・ネアンデルタール人の狩猟 ８回目　脳の発達と心・言語 ・初期人類と現生人類の脳の違い ・心と認知機能の発達 ・コミュニケーション能力・言語の発達 ９回目　グレートジャーニーの始まり ・ホモサピエンスの出アフリカ（地峡か海峡か？） ・海岸ルートと内陸ルート ・トバ火山の破滅的噴火の影響 １０回目　ユーラシア大陸へのホモ・サピエンスの拡散 ・ヨーロッパへの拡散（クロマニョン人） ・アジア・オーストラリアへの拡散（内陸ルートと海岸ルート） ・生き残っていた猿人（ホモ・フロレシエンシス） １１回目　アジアのホモ・サピエンス ・古モンゴロイド（南方系）と新モンゴロイド（北方系） ・寒冷地適応 １２回目　日本へ到達した人類 ・北方ルート・朝鮮ルート・南方ルート（石刃石器群の伝播） ・白保竿根田原洞穴の人骨・港川人 ・局部磨製石斧と台形様石器の意味 １３回目　アメリカ大陸への拡散 ・ベーリンジアを超えて ・グレートジャーニーの終わり １４回目　太平洋への進出 ・ハワイ諸島への到達 １５回目　まとめ ・授業時試験（配布資料・ノート持ち込み可）
到達目標	・「人類」とその一部である現生人類（ホモサピエンス）の多様性と共通性を理解できる。 ・ホモサピエンスの世界への拡散（グレートジャーニー）について理解し、説明できる。 ・世界各地に現在生きる人たちの様々な特徴が、歴史的・生態的な要因で形成されてきたことを説明できる。
授業時間外の学習	人類や日本人の成り立ちに関する報道や展覧会に積極的な関心を持って接すること。

評価方法	筆記試験（70%）　最終授業時に行う。配布資料・ノート持ち込み可とする。 平常点（30%）　授業時の課題・小テスト・授業態度により総合的に評価する。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	『人類史マップ』テルモ・ピエバニ、バレリー・ゼトゥン，2021年,日経ナショナルジオグラフィック社,3200円＋税 『ヒトの進化七〇〇万年史』河合信和，2010年，ちくま新書，860円＋税 『交雑する人類』デイビッド・ライク，2018年，ＮＨＫ出版，2500円＋税 『人類の足跡10万年全史』スティーブン・オッペンハイマー，2007年，草思社，2400円＋税 『心の先史時代』スティーブン・ミズン，1998年，青土社，3200円＋税
備考	

講義科目名称：　日本の歴史と文化　　授業コード：　11501

英文科目名称：　Japanese History and Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	２単位	選択
担当教員			
坂本達彦　教授			
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、主に本学の位置する下野国（現・栃木県）を事例に、近世の人々の生活や文化を講義します。 講義内容から、日本の歴史と文化に関する知識を獲得し、それをもとに自ら調べ、日本語の文章で表現する力を養ってください。 なお、学習成果の指標はA-①とB-①です。 新型コロナウイルス感染症の状況等に応じて、授業計画や授業方式を変更することがあります。同時双方向型かオンデマンド型かは状況を見て判断します。
授業計画	１回目　ガイダンス ２回目　江戸時代の日光山 ３回目　中世から近世へ ４回目　江戸時代の共同体 近世初期における村落秩序の動揺 ５回目 ６回目　江戸時代の衣食住① 江戸時代の衣類・食事について講義します ７回目　江戸時代の衣食住② 江戸時代の食事・住居について講義します ８回目　江戸時代のライフサイクル ９回目　江戸時代の病と死 １０回目　宿場と河岸 江戸時代の巴波川と日光山裏道について講義します １１回目　合戦場一件から見る地域社会 １２回目　旅人の見た下野国の風景ー小津久足の場合ー １３回目　江戸時代の化け物 １４回目　尊王攘夷思想と水戸天狗党 １５回目　まとめ
到達目標	日本の歴史・文化を理解し、自らの文章で説明することができる。 自ら調べ、レポートを作成することができる。
授業時間外の学習	毎回の授業内容は、復習してください。レポートの準備は授業時間外に行ってもらいます。
評価方法	平常点（各回のコメントペーパー）40%、レポート60%。 レポートの内容は、授業で取り上げた内容について、より詳しく調べて作成してもらいます。 教育実習などで全ての授業に出席できない学生もいるとおもうので、受講した中で関心を持った回のテーマをレポートの題材にしてください。 提出期限については、授業時に説明します。 新型コロナウイルス感染症の状況等により、授業計画や授業方式を変更した場合、評価方法を変更することもあります。
テキスト	プリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

備考	履修者数により、計画を変更します。

講義科目名称：　シニア　イングリッシュＡＩ　　授業コード：　12202　12302

英文科目名称：　Senior English A 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
三品勝弘　講師			
添付ファイル			

授業の概要	様々なテーマに関する平易な文章の速読・速解を目指す。また、学習成果の指標はA一①である。なお、遠隔授業となった場合は、課題型学修とし、指定された教材プリントを学び、解答を期限までに提出することとする。
授業計画	１回目　オリエンテーション・基礎テスト ２回目　英文を読む：団体旅行 ３回目　英文を読む：個人旅行 ４回目　英文を読む：広告の役割 ５回目　英文を読む：広告の役割とその例 ６回目　英文を読む：国際人とは ７回目　英文を読む：アメリカ人との会話 ８回目　英文を読む：アメリカ人の許容性 ９回目　英文を読む：日本人は感情的 １０回目　英文を読む：日曜大工 １１回目　英文を読む：ペットを飼う １２回目　英文を読む：日本人の人間関係 １３回目　英文を読む：アメリカ人の人間関係 １４回目　英文を読む：家庭の変化 １５回目　総復習
到達目標	編入試験・就職試験に必要な総合的な英文読解力を身につけたい。
授業時間外の学習	事前に示された教材の、自分のわからない単語や熟語などを辞書で調べ、文章や問題などを事前に予習をしっかりして授業に臨むこと。
評価方法	平常点40％ 確認テスト60％ 遠隔授業となった場合、課題学習の課題提出をもって、評価する。
テキスト	授業時に指示
参考書	英和辞典
備考	

講義科目名称：　シニア　イングリッシュＡⅡ　　授業コード：　22405　23102

英文科目名称：　Senior English A 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
三品勝弘　講師			
添付ファイル			

授業の概要	様々なテーマに関する文章の精読を目指す。また、学習成果の指標はA―①である。なお、遠隔授業となった場合は、課題型学修とし、指定された教材プリントを学び、解答を期限までに提出することとする。
授業計画	１回目　英文を読む：レクレーションとは何か ２回目　英文を読む：子供の世界 ３回目　英文を読む：子供の世界と大人の世界 ４回目　英文を読む：イギリス人と庭園 ５回目　英文を読む：新聞の役割 ６回目　英文を読む：日本語と出会う ７回目　英文を読む：文化とは ８回目　英文を読む：独立心 ９回目　英文を読む：高齢化社会 １０回目　英文を読む：ごみ問題 １１回目　英文を読む：アンネ・フランクについて １２回目　英文を読む：主婦の問題 １３回目　英文を読む：テレビの善悪 １４回目　英文を読む：環境問題 １５回目　総復習
到達目標	編入試験・就職試験に必要な総合的な英文読解力を身につけたい。
授業時間外の学習	事前に示された教材の、自分でわからない単語や熟語などを辞書で調べ、文章や問題などをひっかり予習して授業に臨むこと。
評価方法	平常点40％ 確認テスト60％ 遠隔授業となった場合、課題学習の課題提出をもって、評価する。
テキスト	授業時に指示。
参考書	英和辞典
備考	

講義科目名称：　シニア　イングリッシュＢＩ　　授業コード：　12403　14402

英文科目名称：　Senior English B 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
田村浩一　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	さまざまなテーマの、300 words程度の英文を読む。英語の語彙や文法や構文を意識しながら、文章の正確な読解をめざす。演習形式の授業となるので、学生は予習が必須となる。 なお、学習成果の指標はA－①とB－③とである。 遠隔授業を実施する場合には、②同時双方型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。
授業計画	１回目　オリエンテーション・Helping Others の前半 ２回目　Helping Others の後半 ３回目　Yuna Kim の前半 ４回目　Yuna Kim の後半 ５回目　Movie Directors の前半 ６回目　Movie Directors の後半 ７回目　前半のまとめと復習 ８回目　Coffee Culture の前半 ９回目　Coffee Culture の後半 １０回目　Around the World １１回目　The Puffer Fish １２回目　Technology in the Classroom １３回目　Interesting Buildings １４回目　Bollywood １５回目　後半のまとめと復習
到達目標	四年生大学への編入試験や就職試験に対応できる英語の基礎力と読解力を身につける。 特に、平易な英文を読解する力を身につけることを目標とする。それは専門課程に進んだ後、英語の文献を読みこなして知識・情報を得るための基礎となる。
授業時間外の学習	まず授業を効果のあるものとするために必ず予習をすることが大切である。また語学の習得には毎日継続して学習することが肝要であるから、授業の有無にかかわらず日々の学習を習慣化してもらいたい。英語の新聞雑誌や書籍に少しでも慣れ親しみ、そこから知識・情報を得るということをできるかぎり心がけてもらいたい。
評価方法	授業への参加度と課題の提出状況　20% 確認テスト　80% 遠隔授業に移行した場合には、上記の評価配分を変えることがある。
テキスト	教科書は別に指示する。
参考書	英語の辞書は授業時には必ず用意してもらいたい。英和辞典でも英英辞典でもよい。 また、高校時代の英文法の教科書や参考書も再利用するとよい。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称： シニア イングリッシュＢⅡ　　授業コード： 25202　25301

英文科目名称： Senior English B 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
田村浩一　准教授			
添付ファイル			

授業の概要	さまざまなテーマの、300 words程度の英文を読む。英語の語彙や文法や構文を意識しながら、文章読解力の養成を図る。学生中心の演習的な授業を目指すので、学生はより積極的な姿勢が求められる。 なお、学習成果の指標はA－①とB－③とである。 遠隔授業が必要な場合には、同時双方型学修（Google Meetを利用）で実施する。
授業計画	１回目　The Nobel Prize の前半 ２回目　The Nobel Prize の後半 ３回目　A Funny Cure ４回目　Palm Reading ５回目　Amazing Memory ６回目　Incredible Dogs ７回目　前半のまとめと復習 ８回目　Megacities の前半 ９回目　Megacities の後半 １０回目　Space Explorers １１回目　Happy New Year! １２回目　Rain １３回目　Urban Legends １４回目　Extreme Sports １５回目　後半のまとめと復習
到達目標	四年生大学への編入試験や就職試験に対応できる英語の基礎力と読解力を身につける。 特に、基礎的な英文を読解する力を身につけることを目標とする。それは専門課程に進んだ後、英語の文献を読みこなして知識・情報を得るための基礎となる。
授業時間外の学習	まず授業を効果のあるものとするために必ず予習をすることが大切である。また語学の習得には毎日継続して学習することが肝要であるから、授業の有無にかかわらず日々の学習を習慣化してもらいたい。英語の新聞雑誌や書籍に少しでも慣れ親しみ、そこから知識・情報を得るということをできるかぎり心がけてもらいたい。
評価方法	授業への参加度と課題の提出状況　20% 確認テスト　80% 遠隔授業に移行した場合には、上記の評価配分を変えることがある。
テキスト	教科書は別に指示する。
参考書	授業時に英語の辞書を必ず用意してもらいたい。必要な時にすぐに引けるようにすることが大切である。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称： シニア イングリッシュＣＩ　　授業コード： 15302　15404

英文科目名称： Senior English C 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
乙黒　晃　講師			
添付ファイル			

授業の概要	英語の文章を書くためのスキルを伸ばす。日本語と英語の文章構成の性質の違い、特徴を理解する。「パラグラフ・ライティング」の概念を理解し、英語的なパラグラフを表現する練習をする。将来日本的な事象について英語で説明・発信する能力を養う。学習成果の指標はA-①とB-③である。 遠隔授業を実施する場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	１回目　Unit　A Paragraph as a Product　パラグラフは段落じゃない 授業内容についての導入 Task １ ～ ５ ２回目　Unit 1　Explanations & Exercises Task ６ ～ ７、補助教材による演習 ３回目　Unit 2　Writing a Topic Sentence　主題文で要点を宣言 Task １ ～ ３ ４回目　Unit 2　Exercises Task ４ ～ ５、補助教材による演習 ５回目　Unit 1 ～ Unit 2　まとめ Topic Sentenceについての理解度を確認する ６回目　Unit 3　Writing Supporting Sentences　支持文で強力にサポート Task １ ～ ３ ７回目　Unit 3　Exercises 補助教材による演習 ８回目　Unit 4　Writing a Concluding Sentence　結論文で念押し Task １ ～ ５ ９回目　Unit 4　Exercises Task ６ ～ ７、補助教材による演習 １０回目　Unit 3 ～ Unit 4　まとめ 英語のパラグラフについての理解度を確認する １１回目　Unit 5　Explaining Your Character　自分の性格、好きですか？ Task １ ～ ５ １２回目　Unit ５　Exercises Task ６ ～ ７、補助教材による演習 １３回目　Unit 6　Describing Your Daily Life　大学生活は大変？　それとも楽チン？ Task １ ～ ５ １４回目　Unit 6　Exercises Task ６ ～ ７、補助教材による演習 １５回目　まとめ
到達目標	パラグラフ構成要素を理解し、英文や文章を作ることができる。自身に関係する題材や日本・世界に関する題材について自分の意見や考えを英語で表現し伝えることができる。単なる日本語を英語に置き換える作業的な和文英訳ではなく、伝えるべきテーマを理解し、それを英語と言う言語の特徴を理解した文章構成で書くためのスキルを身につける。
授業時間外の学習	各UnitのTsakについて、わからない英単語や英語表現について最低限、英和辞書を使って調べておくこと。また、Taskの内容についてある程度理解しておくこと。 授業で課されたレポート等の課題に取り組むとき、和英辞書で調べた単語・語句が、実際の英文や文脈の中で使えるかどうかを、必ず英和辞書の文例で調べておくことを推奨する。
評価方法	平常点（毎回の授業内容の理解度確認評価、レポートを含む）70% まとめ確認テストによる評価30% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	静 哲人『Writing Facilitator - 構造から学べるパラグラフ・ライティング入門』改訂版（松柏社、2019年） 補助教材（プリント教材）
参考書	授業には、英和辞書を必ず持参すること。 高校のとき使用した英語表現の教科書や英文法参考書を利用して、テキスト内容について理解を深めるのもよい。 レポート作成のために、インターネット上での無料オンライン辞書（Weblio辞書、英辞郎 on the Web）を利用するのも推奨。

備考	授業時は、授業内容を速記・記録できるノート等の学習用具を持参し使用することを推奨する。 授業計画は一応の目安であり、学生の事情に応じて進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称： シニア イングリッシュＣⅡ　　授業コード： 25101　25302

英文科目名称： Senior English C 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
乙黒　晃　講師			
添付ファイル			

授業の概要	英語の文章を書くためのスキルを伸ばす。日本語と英語の文章構成の性質の違い、特徴を理解する。「パラグラフ・ライティング」の概念を理解し、英語的なパラグラフを表現するための練習をする。将来日本的な事象について英語で説明・発信する能力を養う。学習成果の指標はA-①とB-③である。 遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）と組み合わせて実施する。
授業計画	１回目　Unit 7　Expressing an Opinion　歩きスマホはやめてくれない？ 授業内容についての導入 Task １ ～ ７ ２回目　Unit 7　Exercises Task ８ ～ ９、補助教材による演習 ３回目　Unit 8　Giving Advice and Instruction　ネットショッピング詐欺に引っかからないために Task １ ～ ７ ４回目　Unit 8　Exercises Task ８ ～ ９、補助教材による演習 ５回目　Unit 7 ～ Unit 8　まとめ 補助教材による演習 ６回目　Unit 9　Comparing and Contrasting　似て非なるもの：パブと居酒屋 Task １ ～ ７ ７回目　Unit 9　Exercises Task ８ ～ ９、補助教材による演習 ８回目　Unit 10　Explaining Japanese Culture　説明しよう、日本文化 Task １ ～ ５ ９回目　Unit 10　Exercises Task ８ ～ ９、補助教材による演習 １０回目　Unit 9 ～ Unit 10　まとめ パラグラフ・ライティングの練習 １１回目　Unit 11　Describing Data Expressed in Graphs　データにみる世界の現状 Task １ ～ ５ １２回目　Unit 11　Describing Data Expressed in Graphs　データにみる世界の現状 Task ３ ～ ４、補助教材による演習 １３回目　Unit 11　Describing Data Expressed in Graphs　データにみる世界の現状 Task ５ ～ ６、補助教材による演習 １４回目　Unit 12　Summarizing What You Have Read　AIによって職が奪われるのか Task １ ～ ７ １５回目　まとめ
到達目標	パラグラフ構成要素を理解し、英文や文章を作ることができる。自分に関係する題材や日本・世界に関する題材について自分の意見や考えを英語で表現し伝えることができる。単なる日本語を英語に置き換える作業的な和文英訳ではなく、伝えるべきテーマを理解し、それを英語と言う言語の特徴を理解した文章構成で書くためのスキルを身につける。
授業時間外の学習	各UnitのTaskについて、わからない英単語や英語表現について最低限、英和辞書を使って調べておくこと。また、Taskの内容についてある程度理解しておくこと。 授業で課されたレポート等の課題に取り組むとき、和英辞書で調べた単語・語句が、実際の英文や文脈の中で使えるかどうかを必ず、英和辞書の文例で調べておくことを推奨する。
評価方法	平常点（毎回の授業内容の理解度確認評価、レポートを含む）70% まとめ確認テストによる評価 30% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	静 哲人『Writing Facilityator - 構造から学べるパラグラフ・ライティング入門』改訂版（松柏社、2019年） 補助教材（プリント教材）
参考書	授業には英和辞典を必ず持参する。 高校のとき使用した英語表現の教科書や英文法参考書を利用してテキスト内容について理解を深めるのもよい。 レポート作成のために、インターネット上での無料オンライン辞書（Weblio辞書、英辞郎 on the Web）を利用

	するのも推奨。
備考	授業時は、授業内容を速記・記録できるノート等の学習用具を持参し使用することを推奨する。 授業計画は一応の目安であり、学生の事情に応じて進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。

講義科目名称：　シニア　イングリッシュＤＩ　　授業コード：　11403　11502

英文科目名称：　Senior English D 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
戸叶行一　講師			
添付ファイル			

授業の概要	句、節をとらえ、それらと英文法の基本事項（時制、態、準動詞、関係詞等）を有機的に結びつけることによって、英文の構造（文型）を把握する方法を学ぶ。 テキストの「文法の要点と整理」で基本的知識を整理し、練習問題を解くことによって要点を確認する。 なお、学習成果の指標はA-①と B-③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	１回目　　ガイダンス、§1　文の種類と５文型① ２回目　　§1　文の種類と５文型② ３回目　　§2　句と節① ４回目　　§2　句と節② ５回目　　§3　時制（1） ６回目　　§4　時制（2） ７回目　　§5　能動態と受動態 ８回目　　前半のまとめ ９回目　　§6　助動詞 １０回目　　§7　不定詞 １１回目　　§8　分詞 １２回目　　§9　動名詞 １３回目　　§10　関係代名詞 １４回目　　§11　関係副詞 １５回目　　後半のまとめ
到達目標	英文の骨格をきちんと理解できることを目標とする。単語レベルだけでなく、句や節の働きを理解することによって、英文の構造を明らかにし、英文の内容を速く、正確につかめるようになることを目指す。
授業時間外の学習	授業をより効果的なものにするために、不明な英単語・熟語等の意味を調べることや、テキストの演習問題に解答しておくことが必要である。さらに、英文の音読や音読筆写を復習として行うと一層の進歩が期待できる。
評価方法	課題テスト（70%）平常点（30%） 遠隔授業に変更した場合は、課題レポート（70%）平常点（30%）
テキスト	現代ミニマム英語研究会 『Essential Grammar for College English courses（大学生のミニマム英文法）　』 南雲堂 ２０１６年（２２刷）
参考書	英語の辞書は必携。英和辞典でも英英辞典でもよい。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容を多少、変更する場合もある。

講義科目名称： シニア イングリッシュＤⅡ　　授業コード： 21402　21501

英文科目名称： Senior English D 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
戸叶行一　講師			
添付ファイル			

授業の概要	英文法の基本事項（品詞、仮定法、比較、話法、倒置・強調等）を学び、それらを句、節の視点から体系的に整理し、英文の構造（文型）を把握する方法を学ぶ。 テキストの「文法の要点と整理」で基本的知識を整理し、練習問題を解くことによって要点を確認する。 なお、学習成果の指標はA-①と B-③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	１回目　ガイダンス、§12　仮定と条件 ２回目　§13　比較 ３回目　§14　話法 ４回目　§15　倒置・強調 ５回目　§16　名詞 ６回目　§17　代名詞 ７回目　§18　冠詞 ８回目　前半のまとめ ９回目　§19　形容詞 １０回目　§20　副詞 １１回目　§21　前置詞① １２回目　§21　前置詞② １３回目　§22　接続詞① １４回目　§22　接続詞② １５回目　後半のまとめ
到達目標	名詞、形容詞、副詞の知識と前置詞が導く句、接続詞が導く節の働きに関する知識を結び付け、英文の骨格をきちんと理解できることを目標とする。単語レベルだけではなく、句や節の把握によって、英文の構造を明らかにし、英文の内容を速く、正確につかめるようになることを目指す。
授業時間外の学習	授業をより効果的なものにするために、不明な英単語・熟語等の意味を調べることや、テキストの演習問題に解答しておくことが必要である。さらに、英文の音読や音読筆写を復習として行うと一層の進歩が期待できる。
評価方法	課題テスト（70%）平常点（30%） 遠隔授業に変更した場合は、課題レポート（70%）平常点（30%）
テキスト	現代ミニマム英語研究会 『Essential Grammar for College English courses（大学生のミニマム英文法）』 南雲堂 ２０１６年（２２刷）
参考書	英語の辞書は必携。英和辞典でも英英辞典でもよい。

備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容を多少、変更する場合もある。

講義科目名称：　中国語ＡＩ　　授業コード：　14202　14304

英文科目名称：　Chinese A 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
塚越義幸　教授			
添付ファイル			

授業の概要	中国語の基礎語法を学ぶ。外国語としての中国語を、日本語と比較しながら学ぶことにより、双方の特徴を明らかにしていく。 漢字を共有する日中の言語は、その用法に微妙な差違が生じる。特に発音に大きな隔たりがあるので、発音の学習をしてから、基本文型に移っていく。言語を学ぶには、その国の歴史や文化に精通する必要がある。適宜、中国の歴史（近現代史）や文化（映画や歌など）にも触れていきたい。 学習成果の指標はA-①・③である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet)で実施し、時間割通りの時間で行う。
授業計画	１回目　ガイダンス―中国語とはどんな言葉 ２回目　発音編（一字一音・声調・単母音） ３回目　発音編（子音・複母音・鼻母音その他） ４回目　発音編（発音総合練習） ５回目　第1課　キーセンテンス・ポイント（肯定文・動詞述語文） ６回目　第1課　対話とトレーニング ７回目　第2課　キーセンテンス・ポイント（疑問文１・疑問詞「什？」など） ８回目　第2課　対話とトレーニング ９回目　中国近現代史Ⅰ　現代～中華人民共和国成立まで １０回目　中国近現代史Ⅱ　日中戦争～アヘン戦争あたりまで １１回目　中国映画鑑賞Ⅰ　（「あの子を探して」など名作映画鑑賞　前半） １２回目　中国映画鑑賞Ⅱ　（「あの子を探して」など名作映画鑑賞　後半） １３回目　第3課　キーセンテンス・ポイント（否定文・形容詞述語文など） １４回目　第3課　対話とトレーニング １５回目　まとめ
到達目標	中国語の発音をひと通り正しく発音できる。簡単なあいさつ語を覚える。中国の近現代史を理解できる。
授業時間外の学習	毎日教科書付属のＣＤを聞いて発音に慣れる。習った単語やあいさつ語を繰り返し発音する。テレビやラジオ講座なども視聴する。
評価方法	定期試験100％で評価するが、遠隔授業になった場合はレポート100％
テキスト	相原茂監修『未来を開く入門中国語』朝日出版社
参考書	授業時に指示する。
備考	教育実習の実施期間により、シラバスの内容が変更されることがある。

講義科目名称：　中国語ＡⅡ　　授業コード：　24202　24302

英文科目名称：　Chinese A 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
塚越義幸　教授			
添付ファイル			

授業の概要	引き続いて中国語の基礎語法を学びながら、さらに文章の読解を深める。外国語としての中国語を、日本語と比較しながら学ぶことにより、双方の特徴を明らかにしていく。 春セメスターで学んだ語法を、さらに進めていく。 学習成果の指標はA-①・③である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet)で実施し、時間割通りの時間で行う。
授業計画	１回目　　春セメスターの復習 ２回目　　第4課　キーセンテンス・ポイント（比較文・疑問詞「？什？」など） ３回目　　第4課　対話とトレーニング ４回目　　第5課　キーセンテンス・ポイント（動詞重ね型など） ５回目　　第5課　対話とトレーニング ６回目　　第6課　キーセンテンス・ポイント（指示代名詞など） ７回目　　第6課　対話とトレーニング ８回目　　第7課　キーセンテンス・ポイント（連動文など） ９回目　　第7課　対話とトレーニング １０回目　　第8課　キーセンテンス・ポイント（疑問文2・量詞など） １１回目　　第8課　対話とトレーニング １２回目　　第9課　キーセンテンス・ポイント（文末の語気助詞など） １３回目　　第9課　対話とトレーニング １４回目　　第10課　キーセンテンス・ポイント（様態補語など） １５回目　　総復習
到達目標	Ｉで習得した発音を基本に、短い文章を正しく発音でき、読解できる。基本語法を習得し、簡単な中国語の文を作れる。 中国語の特徴を日本語と比較して考え、簡単な文章でまとめることができる。
授業時間外の学習	引き続き教科書付属のＣＤを聞いて、声を出して発音練習を行う。新出単語の意味を理解し、正しい中国語（簡体字）で書けるようにしておく。授業で行った問題練習で誤ったところがあったら、どこを誤ったかを確認しておく。
評価方法	定期試験100％で評価するが、遠隔授業になった場合はレポート100％
テキスト	相原茂監修『未来を開く入門中国語』朝日出版社
参考書	授業時に指示する。
備考	

講義科目名称：　中国語ＢＩ　　授業コード：　11301　11404

英文科目名称：　chinese B Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
白　蓮傑　講師			
添付ファイル			

授業の概要	この授業は初心者を対象に、中国語の基礎知識を身につけることを目的とする。発音・会話を中心に、中国文化を交えて授業を進める。この授業を通して、中国語だけではなく、その言葉の背景にある中国文化、中国社会についても理解を深めていく。なお、学習成果の指標はA-①とA-③である。 遠隔授業を実施する場合は、同時・双方型（Google　meet、classroomなどを利用）で実施する。授業中は質疑応答、小テスト、グループディスカッションを行う場合がある。
授業計画	１回目　　ガイダンス　中国と中国語について ２回目　　発音編①単母音・声調　　挨拶用語 ３回目　　発音編②子音　　挨拶用語 ４回目　　発音編③複合母音・鼻母音　　挨拶用語 ５回目　　第１課　「あいさつする」 ６回目　　第１課　人称代名詞、「是」を使った文、名前の言い方、「的」の使い方 ７回目　　第２課　「名前を尋ねる」 ８回目　　第２課　疑問詞疑問文、「的」の使い方 ９回目　　第３課　「食べたいものを尋ねる」 １０回目　　第３課　動詞述語文、副詞、省略疑問文 １１回目　　第４課　「近況を尋ねる」 １２回目　　第４課　形容詞述語文、曜日の言い方 １３回目　　第５課　「予定を尋ねる」 １４回目　　第５課　時刻の言い方、数詞、前置詞 １５回目　　まとめ
到達目標	発音の規則に慣れ、基本的な会話ができる。中国語検定試験準四級、HSK一級程度の能力を有する。
授業時間外の学習	辞書を活用して、基本的な会話文、作文を作っておく。
評価方法	授業への参加度（積極性、提出物）20%、課題・小テスト30%、期末試験50%を基に、総合的に評価する。 遠隔授業に移行した場合は、平常点50%、課題50%
テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』岩井伸子・胡興智著　白水社　2019年
参考書	必要に応じて紹介する
備考	

講義科目名称：　中国語ＢⅡ　　授業コード：　21201　21301

英文科目名称：　Chinese B 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
白　蓮傑　講師			
添付ファイル			

授業の概要	発音・文法・漢字（簡体字）など中国語の基礎知識を学習し、状況に応じたコミュニケーション能力を育成することを目的とする。 会話中心の授業であるため、教師が一方的に講義をするのではなく、コミュニケーションを取り入れて授業を進める。なお、学習成果の指標はA-①とA-③である。 遠隔授業を実施する場合は、同時・双方型（Google　meet、classroomなどを利用）で実施する。授業中は質疑応答、小テスト、グループディスカッションを行う場合がある。
授業計画	１回目　　第６課　「場所を尋ねる」 ２回目　　第６課　指示代名詞（１）、存在の「在」 ３回目　　第７課　「注文する」 ４回目　　第７課　所有と存在を表す「有」、数量の言い方 ５回目　　第８課　「値段の交渉をする」 ６回目　　第８課　指示代名詞（２）、値段の言い方 ７回目　　第９課　「出来事を尋ねる①」 ８回目　　第９課　完了の「了」、連動文（１） ９回目　　第10課　「出来事を尋ねる②」 １０回目　　第10課　様態補語、「是---的」文 １１回目　　第11課　「希望を尋ねる」 １２回目　　第11課　助動詞、動作の完了、前置詞 １３回目　　第12課　「行き方を尋ねる」 １４回目　　第12課　選択疑問文、前置詞 １５回目　　まとめ
到達目標	発音の規則に習熟し、状況に応じて基本的なコミュニケーションができる。中国語検定試験四級、HSK二級程度の能力を有する。
授業時間外の学習	辞書などを活用して、作文を作って練習すること。
評価方法	授業への参加度（積極性、提出物）20%、課題・小テスト30%、期末試験50%を基に、総合的に評価する 遠隔授業に移行した場合は、平常点50%、課題50%
テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』岩井伸子・胡興智著　白水社　2019年
参考書	授業中に必要に応じて紹介する
備考	

講義科目名称：　コリア語ＡＩ　　授業コード：　16201

英文科目名称：　Korean Language A 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	１年次	１単位	選択
担当教員			
宮塚寿美子　講師			
添付ファイル			

授業の概要	韓国語を初めて勉強する人を対象に、ハングル文字・発音・文法の基本を学習します。一緒に韓国語に親しみながら勉強していきましょう。 実際に韓国語を使えるようになるために、授業では、ペア・グループワークなどを積極的に行います。また韓国事情、文化などについても触れながら授業を進めます。予習・復習とともに主体的に授業に臨んでください。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学習（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施する。 学習成果の指標はA－①とB－③とである。
授業計画	１回目　オリエンテーション なぜコリア語を受講するのか？自己紹介など。 授業方針説明。 ２回目　Ⅰハングル コリア語の文字であるハングルの構造について。ハングルの読み書きを習い始めます。 ３回目　Ⅱ中声（１）単母音　Ⅲ中声（２）半母音［j］＋単母音　Ⅳ中声（３）半母音［w］＋単母音 最も基本の母音８つを習います。韓国語にも日本語の「ヤユヨ」のように半母音［j］と短母音が結びついた音があります。 ４回目　Ⅴ二重母音　Ⅵ初声（1）~（３） マ、ナ、ハ、ラ音のハングルを習います。 ５回目　Ⅶ~Ⅸ　初声・濃声・激声 清音・半濁音のような発音を習います。 ６回目　終声 終声字母について習います。これまでの文字の組み合わせの応用です。 ７回目　中間試験 ハングルの読み書きの確認テストです。 ８回目　ドラマ、映画鑑賞。 韓国ドラマ、映画を通してコリア語を意識してみる。 ９回目　０１こんにちは ～です、～は　について会話と文法を習う。 １０回目　０２田中さんは兄弟はいますか。 あります・いません　の表現を習う。 １１回目　０３この人は誰ですか。 ～は、～です。～ですか？の表現を習う。 １２回目　０４寮はどこですか。 こそあど言葉を習う。 １３回目　０１－０４の確認 前回の確認復習テスト。 期末試験対策 １４回目　期末試験 １５回目　ハングルタイピング練習 パソコンのキーボードで、韓国語入力を習う。
到達目標	前期が終わるころまでには、自分の名前など基本的な初級レベルのハングルが読み書きできるようになる。
授業時間外の学習	授業で習ったことを復習。積極的に朝鮮半島に興味をもつ。 普段から、ニュースなどから韓国、北朝鮮に関する時事問題にも興味を持つ。
評価方法	平常点（授業への積極性、参加度、授業態度など）40%、提出物（宿題、レポート）20%、テスト40% ※遠隔授業の場合でも評価方法は同じ。
テキスト	中島仁 /金珉秀 /吉本一『新・韓国語へのとびら』朝日出版社　2700円＋税
参考書	授業の中で紹介します。
備考	

講義科目名称：　コリア語ＡⅡ　　授業コード：　26202

英文科目名称：　Korean Language A 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	１年次	１単位	選択
担当教員			
宮塚寿美子　講師			
添付ファイル			

授業の概要	「コリア語ＡＩ」での学習内容をベースに、韓国語でコミュニケーションする力（読む、聞く、書く、話す）を養っていきます。韓国語に慣れ親しみながら学習を続けていきましょう。 実際に韓国語を使えるようになるために、授業では、ペア・グループワークなどを積極的に行います。また韓国事情、文化などについても触れながら授業を進めます。予習・復習とともに主体的に授業に臨んでください。 ＊授業予定は、進行状況などにより変更される場合があります。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学習（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施する。 学習成果の指標はA－①とB－③とである。
授業計画	１回目　オリエンテーション 春セメスターの確認 映像、音楽鑑賞を通じてのコリア語理解 ２回目　０３A　教室は何階ですか。 漢字語数詞を習います。 ３回目　０３B　誕生日はいつですか。 時間に関する言葉を習います。 ４回目　０４A　男子学生も２人います。 固有語数詞を習います。 ５回目　０４B　これ、いくらですか。 ～と、～です　の表現を習う。 ６回目　０５A　1時間目は何時からですか。 ～まで　の表現を習う。 ７回目　０５B　毎日、授業がありますか。 時間に関する表現を習う。 ８回目　０３－０５の確認 中間試験対策をします。 ９回目　中間試験 １０回目　０６A　一緒に夕食を食べましょう。 活用形を習う。 １１回目　０６B　どこで会いますか。 ～で、～から　の表現を習う。 １２回目　０７A　私は田中です。 ～です、～ではありません　の表現を習います。 １３回目　０７B　私は食堂で食べます。 活用形を習います。 １４回目　０６－０７の期末試験 期末テスト １５回目　セメスターのまとめ
到達目標	日常生活の言葉が、初級レベルでハングルで会話できるようになる。
授業時間外の学習	授業の内容の復習。 積極的に朝鮮半島に興味をもつ。
評価方法	平常点（授業への積極性、参加度、授業態度など）40%、提出物（宿題、レポート）20%、テスト40% ※遠隔授業の場合でも評価方法は同じ。
テキスト	中島仁 /金珉秀 /吉本一『新・韓国語へのとびら』朝日出版　2700円＋税
参考書	高木丈也『慶大の超人気授業が本になった！ 本当によくわかる韓国語初』KADOKAWA　1699円 随時、授業の中で紹介します。

備考	「コリア語ＡＩ」からの継続が望ましいが、ハングル文字の読み書きがスムーズにできれば受講可能。オリエンテーション時に担当講師に相談。 受講人数などによって、進行状況が変更する可能性があります。

講義科目名称：　コリア語ＢＩ　　授業コード：　16102

英文科目名称：　Korean Language B 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
宮塚寿美子　講師			
添付ファイル			

授業の概要	「コリア語ＡＩ、ＡⅡ」での学習内容をベースに、韓国語でのコミュニケーション力（読む、聞く、書く、話す）の伸長を図っていきます。韓国語に慣れ親しみながら学習をしていきましょう。 実際に韓国語を使えるようになるために、授業では、ペア・グループワークなどを積極的に行います。また韓国事情、文化などについても触れながら授業を進めます。予習・復習とともに主体的に授業に臨んでください。 セメスター中に教科書を二つ使うことになります。 ＊授業予定は、進行状況などにより変更される場合があります。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学習（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施する。 学習成果の指標はA－①とB－③とである。
授業計画	１回目　オリエンテーション コリア語Aの復習 パソコンのキーボードでハングルのタイピング。 ２回目　７－A　私は田中です。 ～です。　～ではありません。私 ３回目　７－B　私は学生食堂で食べます。 前回の確認復習テスト。 活用形 ４回目　８－A　いいえ、よくありません。 前回の確認復習テスト。 ～ない　好きだ、嫌いだ ５回目　８－B　どうして食べられないのですか？ 前回の確認復習テスト。 激音化　～できない 第6回目　９－A　昨日、何しましたか？ 前回の確認復習テスト。 過去形 ハングル交換日記スタート 第7回　９－B　私は家で休みました。 前回の確認復習テスト。 過去形　話し言葉での助詞の縮約 第8回　中間試験 ７～９ 第9回　映像鑑賞 韓国映画鑑賞 第10回　１０－A　何の外国語を習いたいですか？ ～することができる／できない ～したい 何の 第11回　１０－B　私は入り口の横に立っています。 前回の確認復習テスト。 ～している 第12回　１１－A　何の用事でお越しになりましたか？ 前回の確認復習テスト。 尊敬形　～なさいます ～で、へ 第13回　１１－B　先生、今昼食を召し上がりますか？ 前回の確認復習テスト。 尊敬動詞の非過去形・過去形 第14回　１０－１１　中間試験 中間試験 第15回　映像鑑賞 ドラマ、映画を通してのコリア語理解。
到達目標	ハングルで簡単な文章、伝えたいことを話したり、書いたりする。 語彙力を増やす。

授業時間外の学習	宿題を必ずやる。 音声を聞きながら教科書の内容を確認する。 日頃から積極的に朝鮮半島に興味をもつ。 メディア報道による韓国、北朝鮮情勢のニュースも日々関心を払う。
評価方法	平常点（授業への積極性、参加度、授業態度など）40%、提出物（宿題、レポート）20%、テスト40% ※遠隔授業の場合でも評価方法は同じ。
テキスト	中島仁・金珉秀典・吉本一『新・韓国語へのとびら』朝日出版社　2,700円＋税 ※コリア語Aと同じ教科書。
参考書	随時、授業の中で紹介します。
備考	１年次からの継続が望ましいが、ハングルの読み書きがスムーズにでき、コリア語Ａ（Ⅰ・Ⅱ）の学習内容を独学などでキャッチ・アップできれば受講可能。コリア語ＢⅠから受講する場合は、オリエンテーション時に担当講師に相談。

講義科目名称：　コリア語ＢⅡ　　授業コード：　26102

英文科目名称：　Korean Language B 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
宮塚寿美子　講師			
添付ファイル			

授業の概要	「コリア語ＢＩ」に続き、日常生活の色々な場面での、韓国語によるコミュニケーション力（読む、書く、聞く、話す）の伸長をさらに養っていきます。韓国語に慣れした見ながら学習を続けていきましょう。 実際に韓国語を使えるようになるために、授業では、ペア・グループワークなどを積極的に行います。また韓国事情、文化などについても触れながら授業を進めます。予習・復習とともに主体的に授業に臨んでください。 ＊授業予定は、進行状況などにより変更される場合があります。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学習（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施する。 学習成果の指標はA－①とB－③とである。
授業計画	１回目　オリエンテーション 春セメスターの復習 映像からみるコリア語 ２回目　１２－A　本当に大きな書店ですね。 ～する。～している ～ではない ～ですね ３回目　１２－B　食べたことがないんですか？ 前回の授業の復習確認テスト ～した ～したことがある／ない ４回目　１３－A　検索してみます。 前回の授業の復習確認テスト ～した ～してみる ～しますよ ５回目　１３－B　何日間、行くんですか？ 前回の授業の復習確認テスト ～するだろう ～つもりだ ６回目　１４－A　今日、授業終わって何しますか？ 前回の授業の復習確認テスト ～して ７回目　１４－B　人が多いので平日に行きましょう。 ～けど ～から ８回目　１２－１４復習 中間試験準備対策 ９回目　中間試験 １０回目　映像鑑賞 韓国のドラマや映画鑑賞 １１回目　１５－A　本当に最高でした。 ～になる ～だけ １２回目　１５－B　どこか痛いですか？ ～に、～ように １３回目　１６－A　トッポキを作りました。 ～することができる・できない １４回目　１６－B　本当に重くないですか？ ～してくれる・してあげる 課題提出(書き込みノート) １５回目　１５－１６　期末試験 期末試験
到達目標	2年間コリア語を学習してきた成果として、自分で日常生活で意思疎通できるくらい 読み、書きできるようにする。

授業時間外の学習	宿題を必ずやる。 積極的に朝鮮半島に興味をもち、政治、経済、文化などに通じやすくなるよう ニュースなども観る。
評価方法	平常点（授業への積極性、参加度、授業態度など）40%、提出物（宿題、レポート）20%、テスト40% ※遠隔授業の場合でも評価方法は同じ。
テキスト	中島仁・金珉秀典・吉本一『新・韓国語へのとびら』朝日出版社　2,700円＋税 ※コリア語Aと同じ教科書。 『韓国語文法』書きこみノート　Gakken 1200円＋税
参考書	随時、授業の中で紹介します。
備考	「コリア語ＢＩ」からの継続が望ましいが、ハングルの読み書き及びコリア語ＢＩの学習内容を独学などでキャッチ・アップできれば受講可能。コリア語ＢⅡから受講する場合は、オリエンテーション時に担当講師に相談。

講義科目名称：　スポーツ・健康科学ＢＩ（理論・実技）　　授業コード：　14403

英文科目名称：　Sports and Wellness Science B 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
石山育朗　教授			
添付ファイル			

授業の概要	【対面授業】 運動を習慣化することは、体力の維持・向上だけでなく意欲や自信など精神面にも効果をもたらす。この授業は、１年次のＡＩ・Ⅱの経験をもとに運動量の確保を主として仲間とのコミュニケーションも目標に実技を実施する。 実技種目は、主にバレーボール・バスケットボール・バドミントンを行う。そのほか仲間との協力、工夫して運動すること（アクティブラーニング）を学んでいく。学習成果の指標はA-③、B-②である。 【オンライン授業】 新型コロナウィルスの影響で対面授業ができない場合、オンラインによる①課題型学修「Google Classroom」と②同時・双方向型学修「Google Meet」を組み合わせておこなう。継続して運動するように、ひとりでどこでもできる運動を工夫して自主的に行っていく。 なおコアトレのほか、体脂肪量の燃焼のため縄跳び、ジョッギングなどの有酸素運動を行う。双方型ミーティングでは食事、睡眠、運動の意義、物事を続けていくマインドセット、心の健康を保つコツについて解説する。
授業計画	１回目　オリエンテーション・講義１ 授業予定、成績評価、対面授業とオンライン授業について ＊不要不急の外出禁止の場合、Google Meetによるオンライン授業（同時・双方型授業）に切り替える ２回目　実技（導入編１） 縄跳びチャレンジ、コアトレチャレンジ（１年次の自分との比較）、各種目の課題にチャレンジ（以下、実技では毎回、縄跳び・コアトレの後、各種目の課題に各自が取り組む／種目別課題のチャレンジ） ＊オンラインの場合、課題型学修（自主トレ）に切り替えて遂行 ＊体格（体重、腹囲）の計測 ３回目　実技（導入編２） ○軽い負荷と回数による基本のコアトレ（上体・肩腕、胴体前部・背部、腰・大腿部）と各種目の基礎的動きの確認 ○種目別課題のチャレンジ ４回目　実技（開始期１） ○通常（各種目１）の負荷と回数で「腕・肩」のトレーニング ○種目別課題の確認とチャレンジ ５回目　実技（開始期２） ○通常（各種目１～２セット）の負荷と回数で「胸・腹部（体幹の前面）」のトレーニング ○種目別課題のチャレンジ ６回目　実技（開始期３） ○通常（各種目１～２セット）の負荷と回数で「腹部（クランチ、ローテション」のトレーニング ○種目別課題（前回できなかった種目へのチャレンジ、回数・強度のアップ） ７回目　実技（継続期１） ○負荷と回数を増やし（２～３セット）「腰・下肢」のトレーニング ○種目別課題のチャレンジ ８回目　実技（継続期２） ○身体の感覚運動の動きを各自でチェックして回数を考えながら「体幹前面」のトレーニング ○種目別課題のチャレンジ ９回目　実技（継続期３） ○縄跳びチャレンジの効果確認（最低２分間跳びができるか）、「腰・下肢」のコアトレ ○種目の課題トライアル（より上のレベルを目指す） １０回目　実技（継続期４） ○飽きない工夫を考えてチャレンジ（各種目の応用型を考え状況に応じた動きでトレーニング） ○種目別課題トライアル １１回目　実技（発展期１） ○正しい動きで「胸・腹部」の体幹前面のトレーニング ○種目別課題トライアル １２回目　実技（発展期２） ○種目のバリエーションを考えて「胸・腰・下肢」を鍛える ○種目別課題トライアル １３回目　実技（発展期３） ○縄跳びチャレンジ（２分間・３分間）、使っている筋肉を意識しながら体を動かす ○種目別課題トライアル １４回目　講義２ 【対面・オンライン共通】 生活習慣を見直し、健康に必要な習慣を続ける工夫を考える

	１５回目　　講義３（まとめ） 【対面・オンライン共通】 春セメのまとめと課題の提出および質疑応答
到達目標	【対面授業】 ①縄跳びを連続３分跳び続けること（技能、学びに向かう力） ②バレーボール、バドミントン、卓球、バスケットボール各種目に記されている課題（個人ポートフォリオ）の３分の１以上ができること（知識・技能、思考力、学びに向かう力） ③コアトレの基本４種目を覚えて実践できること（知識、思考力、学びに向かう力） 【オンライン授業】 課題（レポート）作成、授業参加のためのＰＣ操作の習得、自主トレによる体力の向上と体形の適正維持 【本講座におけるディプロマ・ポリシーとの関連】 「主体的に学び、基礎力とキャリア形成力を身につけることができる」「～現代社会の変化に、自ら判断して対応することができる」に繋がる。
授業時間外の学習	週１回だけで到達目標をクリアーすることは難しい。授業外に自主トレを行う必要がある。また、運動の方法のみならず食事の知識が体力、体形の維持には必須であるため、運動のエネルギー源と体を作る栄養、食事について学習が必要である。食事の知識は無知なダイエットで身体を損なうことを防ぐ重要な知見となる。参考書の②④は安価で分かりやすいので購入を薦める。
評価方法	【対面授業】 ①実技の課題シート・種目別課題得点合計（５０％） ②３分間縄跳びの完遂回数（２０％） ③期末レポート（３０％） 【オンライン授業】 ①コアトレ課題シート・種目別課題得点合計（５０％） ②３分間縄跳びの完遂回数（２０％） ③小テストおよび期末レポート（３０％） オンライン授業の場合も評価方法は変わらない 【単位取得条件】 縄跳び２分間連続跳び（１回、単位認定の条件）
テキスト	石山育朗『アドラー心理学で続けるひとりでできるエクササイズ』（アルテ、2019年）
参考書	①久野譜也『筋トレをする人が10年後、20年後になっても老けない46の理由』（毎日新聞出版、2015年） ②川端理香『食事と栄養　究極のポイント５０』（メイツ出版、2012年） ③比嘉一雄『自重体幹トレ100の基本』（枻出版社、2014年） ④香川明夫『食品栄養成分表』（女子栄養大出版部、2020年）
備考	オンライン授業の同時・双方型学修に円滑な参加ができるオンライン環境を各自で整えて欲しい。大学のシステムとサーバーに起因するものでないインターネット環境の不具合による欠席、課題の未提出は自己責任とする。単位認定に係る出席状況、成績判定は学則第２２条、第２３条に則る。諸事情により授業内容を変更する場合がある。連絡等はGoogle Classroom（ストリーム）でおこなう。 なお、授業態度（服装、ヤル気、協力的態度など）によって厳重に対処する。

講義科目名称：　スポーツ・健康科学ＢⅡ（理論・実技）　　授業コード：　22202

英文科目名称：　Sports and Wellness Science B 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	２年次	１単位	選択
担当教員			
石山育朗　教授			
添付ファイル			

授業の概要	どうすれば運動量の確保と技術の向上するかを考えておこなう。仲間との協力は運動力の確保のほか体力、技術向上、継続、楽しむことに欠かせない（アクティブラーニング）。 【対面授業】 学外でも運動ができるように体力、環境、好みを考慮した「どこでもできる自分流エクササイズ」の実施方法を身につけていく。春セメに続き、コアトレ、球技種目を中心に有酸素運動（自転車、ステップマシンも活用）を適宜実施していく。運動の楽しさを実現するように工夫して運動量を確保する。学習成果の指標はA-③、B-②である。 【オンライン授業】 新型コロナウィルスの影響で対面授業ができない場合、オンラインによる①課題型学修「Google Classroom」と②同時・双方向型学修「Google Meet」を組み合わせておこなう。 「継続」が最も重要であるので、コアトレのほかひとりでどこでもできる縄跳び、ウォーキング、ジョギング運動を工夫して自主的に行っていく。双方型ミーティングでは食事、睡眠の意義、続けるためのマインドセット、心の健康を保つコツについて解説する。
授業計画	１回目　オリエンテーション（実施予定と諸注意）、コアトレ、縄跳び、球技（選択、身体馴らしとして） ２回目　実技　コアトレ（４種目）と縄跳び（以降毎回実施）、バドほか種目選択・実践（基礎とゲーム） ３回目　実技　筋トレ（コアトレ、ダンベル運動）、球技（ゲーム、自分のできること・できないことを見つける） ４回目　実技　運動量と身体感覚（いつもと違う技・動作をするとどんな感覚があるか） ５回目　実技　運動量と攻め方を考える（ゲーム中心） ６回目　実技　チームメイトとの協力（仲間の動きから次を予想する、どう声をかけるか、ゲーム） ７回目　実技　ゲームで自分を活かすには何をするか（各自の課題を持つ、ゲーム） ８回目　実技　考える運動（筋トレ・コアトレ＝運動量を増やすには何をするか、ゲーム） ９回目　実技　難しい技にチャレンジ（ゲーム） １０回目　実技　緩急をつけた動きと体感覚、難しい技にチャレンジ（ゲーム） １１回目　実技　相手の出方を見た動き、難しい技にチャレンジ（ゲーム） １２回目　実技　相手のアクションから予測して動く、難しい技にチャレンジ（ゲームと実技試験） １３回目　実技　ゲーム展開を予測する。今、その状況で「自分は何をすべきか」を考えたゲーム展開（実技試験を含む） １４回目　講義１　運動のエネルギー消費と筋肉、コアトレに必要な栄養 １５回目　講義２　心の健康を保つ（対人関係のスキルを学ぶアドラー心理学）と秋セメのまとめ
到達目標	【対面授業】 ①縄跳びを引っ掛らずに３分跳び続けること（技能、学びに向かう力） ②バドミントン、卓球、バスケットボール各種目に記されている課題（個人ポートフォリオ）の３分の１以上で「A」以上を取ること（知識・技能、思考力、学びに向かう力） ③コアトレの基本４種目を覚えて実践できること（知識、思考力、学びに向かう力） 【オンライン授業】 課題（レポート）作成、授業参加のためのＰＣ操作の習得、自主トレによる体力の向上と体形の適正化 【本講座におけるディプロマ・ポリシーとの関連】

	「主体的に学び、基礎力とキャリア形成力を身につけることができる」「～現代社会の変化に、自ら判断して対応することができる」に繋がる。
授業時間外の学習	課題レベルの「Ａ」に留まらず「Ｓ」を取るためには週１回だけでは難しく、授業外に自主的トレを行う必要がある。さらに、基礎体力を高めるためにも食事の知識が必須である。体を作る栄養、食事について学習が必要であり、食事の知識は無知なダイエットで身体を損なうことを防ぐ重要な知見とする。参考書の②④は、安価で分かりやすいので購入を薦める。
評価方法	【対面授業】 ①実技の課題シート・種目別課題得点合計（５０％） ②３分間縄跳びの完遂回数（２０％） ③期末レポート（３０％） 【オンライン授業】 ①コアトレ課題シート・種目別課題得点合計（５０％） ②３分間縄跳びの完遂回数（２０％） ③小テストおよび期末レポート（３０％） オンライン授業の場合も評価方法は変わらない 【単位取得条件】 縄跳び１２０秒間連続跳び（２回、または３分間連続跳び１回、単位認定の条件）
テキスト	石山育朗『アドラー心理学で続けるひとりでできるエクササイズ』（アルテ、2019年）
参考書	①久野譜也『筋トレをする人が10年後、20年後になっても老けない46の理由』（毎日新聞出版、2015年） ②川端理香『食事と栄養　究極のポイント５０』（メイツ出版、2012年） ③比嘉一雄『自重体幹トレ100の基本』（枻出版社、2014年） ④香川明夫『食品栄養成分表』（女子栄養大出版部、2020年）
備考	遠隔授業の同時・双方型学修に円滑な参加ができるオンライン環境を各自で整えて欲しい。大学のシステムとサーバーに起因するものでないインターネット環境の不具合による欠席、課題の未提出は自己責任とする。単位認定に係る出席状況、成績判定は学則第２２条、第２３条に則る。諸事情により授業内容を変更する場合がある。連絡等はGoogle Classroom（ストリーム）でおこなう。 なお、不真面目な授業態度については厳重に対処する。